

# 取扱説明書

---

## HVS-30GUI

HVS-300HS/RPS コントロールソフトウェア

HVS-300HS/RPS Control Software

---

Version 2.02 - Higher

## 改訂履歴

Ver.	Rev.	年月日	改訂内容	改訂箇所
1.0	-	2009/07/10	初版	
1.0	1	2009/07/31	GUI でできない操作にフェーダリミット追加 スイッチャ内部への読み込み追加 その他全般的に誤記の修正、図の差し換え	2-2, 2-3 章 6-2-1 章
2.0		2010/01/18	全ウィンドウおよびメイン画面レイアウトの変更 ソフトウェアのインストール (64 ビット版手順追加) メイン画面レイアウト 5 パターン保存 ダイレクトパターン選択 イベントのダイレクトリコール キーボードによるトランジション操作追加 メニューバー追加	1-3 章 2-6 章 3-6 章 7 章 9 章 10 章
2.01		2010/04/29	LAN/WAN 機能 ライセンス登録	1-5, 1-7 章 1-6 章
2.02		2010/06/30	FTP PASV PORT 設定追加	1-7-3 章 1-7-4 章

## 開梱および確認

---

このたびは、HVS-300HS/RPS コントロールソフト HVS-30GUI をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。本製品を正しくご使用して頂くために、この取扱説明書をよくお読みください。また、本書はお読みになった後も大切に保管してください。

### ◆ 構成表

品名	数量	備考
CD-ROM	1	
取扱説明書	1	(本書)

HVS-30GUI は初回起動から 30 日間評価版として起動することができます。評価版では機能制限はありませんが、試用期限の 30 日間を過ぎるとライセンス登録を行なうまで操作が不可能となります。ライセンス登録方法については「1-6. ライセンス登録」を参照してください。

## 確認

---

もし、品物に損傷があった場合は、直ちに運送業者にご連絡ください。品物に不足があった場合や、品物が間違っている場合は、販売代理店までご連絡ください。

## 登録商標

---

**Microsoft Windows** ® は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

**Pentium** ® は米国 Intel Corporation の登録商標です。

# 目次

---

1. セットアップ .....	1
1-1. セットアップの手順 .....	1
1-2. PC の動作環境 .....	1
1-3. ソフトウェアのインストール .....	2
1-4. ソフトウェアのアンインストール .....	6
1-5. PC のネットワーク設定 .....	7
1-6. ライセンス登録 .....	8
1-7. MU との接続 .....	9
1-7-1. ローカル接続 (MU が 1 台の場合) .....	9
1-7-2. ローカル接続 (MU が 2 台以上の場合) .....	9
1-7-3. ローカル接続 (MU が別の LAN にある場合) .....	11
1-7-4. インターネットを経由した接続 .....	12
1-7-5. HVS-300HS システム構築例 .....	14
1-8. ソフトウェアの起動とフォーマット選択 .....	15
2. GUI 操作について .....	16
2-1. GUI により容易になった操作 .....	16
2-2. GUI でできない操作 .....	16
2-3. メイン画面 .....	17
2-4. 画面レイアウト .....	18
2-5. KEYER、PinP、DSK、WIPE メニューの表示 .....	19
2-6. SETUP メニューの表示 .....	19
2-7. 数値入力とメニュー設定 .....	20
3. バックグラウンドトランジション .....	22
3-1. CUT .....	22
3-2. MIX .....	22
3-3. WIPE .....	23
3-4. WIPE モディファイ例 (パターン 20) .....	24
3-5. DVE モディファイ例 (パターン 117) .....	25
3-6. ダイレクトパターン選択 .....	26
3-6-1. ダイレクトパターンの登録 .....	26
3-6-2. ダイレクトパターン選択 .....	26
3-6-3. ダイレクトパターンの上書き禁止 .....	27
3-6-4. ダイレクトパターンの削除 .....	27
4. ピクチャ・イン・ピクチャ .....	28
4-1. ピクチャ・イン・ピクチャのセットアップ .....	28
4-2. PinP の IN/OUT .....	30
5. KEYER と DSK .....	31
5-1. バスキーのセットアップ .....	31
5-2. DSK の IN/OUT 効果 .....	32
5-3. クロマキーのセットアップ .....	33
5-4. KEYER の IN/OUT 効果 .....	34
5-5. KEYER/DSK の 2D DVE 効果 .....	35
5-5-1. 2D DVE を有効にする .....	35
5-5-2. 位置とサイズを変更する .....	35

6. スチル映像	37
6-1. スチルストア	37
6-2. スチル画像の保存と読み込み	38
6-2-1. スイッチャ内部への保存と読み込み	38
6-2-2. PC への保存と読み込み	39
7. イベントメモリ	41
7-1. イベントの保存	41
7-2. イベントの読み込み	42
7-2-1. DIRECT RECALL	42
7-2-2. RECALL ダイアログを使う	43
7-3. イベントの上書禁止	44
7-4. イベントの削除	44
8. ファイル操作	45
8-1. データファイル	45
8-2. ALL データの保存と読み込み	46
8-3. SYS データの保存と読み込み	47
8-4. イベントデータの保存と読み込み	47
9. キーボード操作	48
9-1. キーマッピング	48
9-2. トランジション	49
9-2-1. バックグラウンドトランジション	49
9-2-2. KEYER トランジション	50
9-2-3. ブラックトランジション	50
9-2-4. トランジションプレビュー	50
9-2-5. 複数バス同時トランジション	51
9-3. イベントの読み込み	52
10. メニューバー	53
10-1. File	53
10-2. Window	53
10-3. Setup	53
10-4. SystemInfo	54



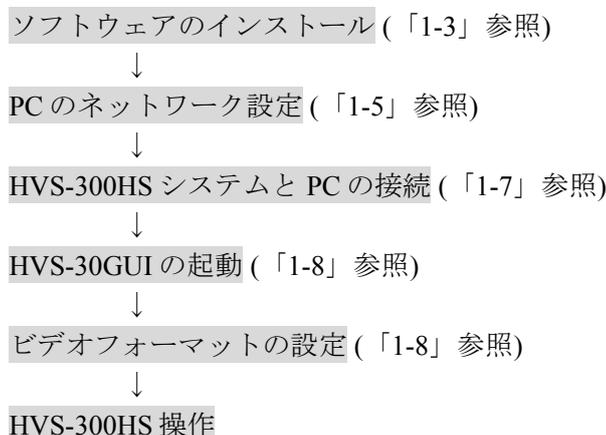
# 1. セットアップ

---

## 1-1. セットアップの手順

---

HVS-30GUIはPCにインストールすることにより、HVS-300HS/RPS (以降 HVS-300HS と表記) をPCからコントロールすることのできるソフトウェアです。HVS-300HS と PC はイーサネット接続します。セットアップは次の手順で行います。



## 1-2. PC の動作環境

---

### ◆ 必要動作環境

OS	Windows XP SP2以降 (Professional または Home Edition) または Windows Vista SP2 以降
CPU	Pentium4 1.2GHz 以上
空きメモリ	512MB 以上
ディスプレイ	解像度 1280×768 pixels 以上、24 ビットフルカラー 64MB 以上のメモリを含むグラフィックカード (OpenGL1.0 または 2.0 対応)
ネットワークポート	10BASE-T/100BASE-TX 1ポート
ネットワークケーブル	カテゴリ 5 以上
ソフトウェア	.NET Framework 2.0 (付属の CD-ROM に収録) Windows Installer 3.0 (付属の CD-ROM に収録) Internet Explorer 6.0 以上

### ◆ 推奨環境

OS	Windows Vista SP2 以降
CPU	Pentium4 1.2GHz 以上
空きメモリ	1024MB 以上
ディスプレイ	解像度 1280×768 pixels 以上、24 ビットフルカラー 128MB 以上のメモリを含むグラフィックカード (OpenGL1.0 または 2.0 対応)
ネットワークポート	10BASE-T/100BASE-TX 1ポート以上
ネットワークケーブル	エンハンスドカテゴリ 5 以上
ソフトウェア	.NET Framework 2.0 (付属の CD-ROM に収録) Windows Installer 3.0 (付属の CD-ROM に収録) Internet Explorer 6.0 以上

## 1-3. ソフトウェアのインストール

### ◆ 64 ビット版の Windows XP をご使用のユーザの方へ

PC に [.NET Framework 2.0] がインストールされていない場合は、HVS-30GUI をインストールする前に [NetFX64.exe] をダブルクリックし、 [.NET Framework 2.0] をインストールしてください。

[.NET Framework 2.0] が既にインストールされている場合は、 [NetFX64.exe] をダブルクリックすると [Microsoft .NET Framework 2.0 (x64) セットアップ] の [メンテナンスモード] ダイアログが表示されます。 [キャンセル] をクリックして画面を閉じ、 HVS-30GUI のインストールを開始してください。

### ◆ HVS-30GUI のインストール

- (1) 付属のインストール CD-ROM を PC にセットし、マイコンピュータ等から CD-ROM を開き、フォルダ内の [HVS-30GUI\_J.exe] をダブルクリックしてセットアップウィザードを起動します。

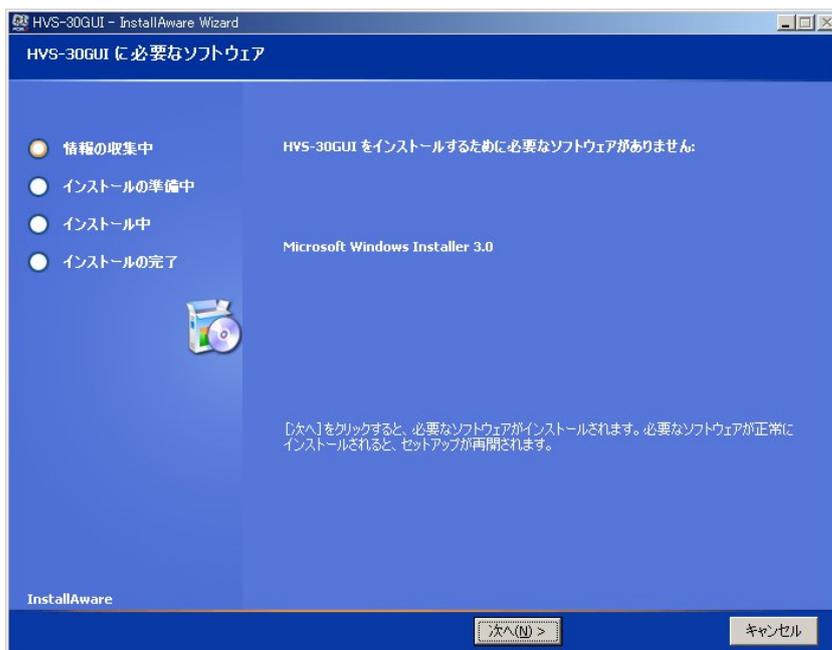


#### 注意

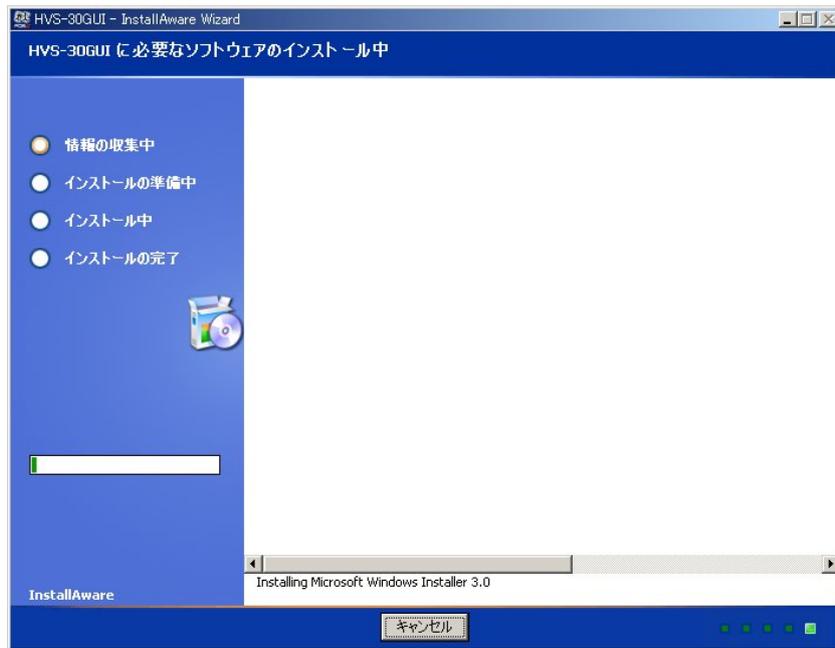
CD-ROM の内容をフォルダにコピーしてインストールを行う場合は、フォルダ名に使用できる文字は半角英数字と記号だけです。それ以外の文字を使用すると、インストールが正常に完了しないことがあります。

- (2) PC に [Windows Installer 3.0] がインストールされていない場合は次の画面が表示されますので、 [次へ (N) >] をクリックします。

PC に [Windows Installer 3.0] がインストール済みの場合は、この画面は表示されません。



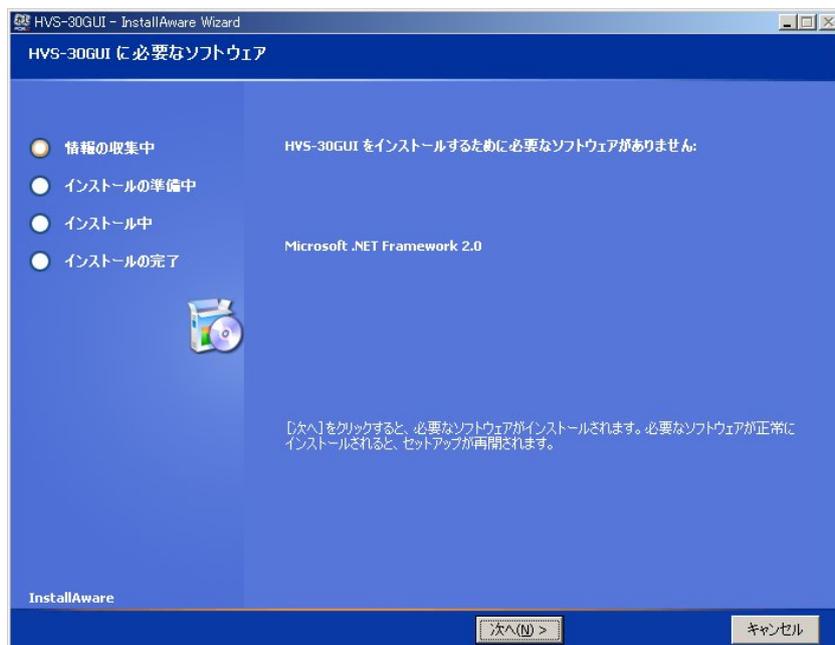
- (3) [.NET Framework 2.0] および [Windows Installer 3.0] のインストールが開始されます。すでに PC にインストール済みの場合は、表示されません。



- (4) インストールが完了すると次の画面が表示され、PC の再起動を要求されることがあります。[OK] をクリックして PC を再起動してください。



- (5) PC に [.NET Framework 2.0] がインストールされていない場合は次の画面が表示されますので、[次へ(N)>] をクリックします。PC に [.NET Framework 2.0] がインストール済みの場合は、この画面は表示されません。



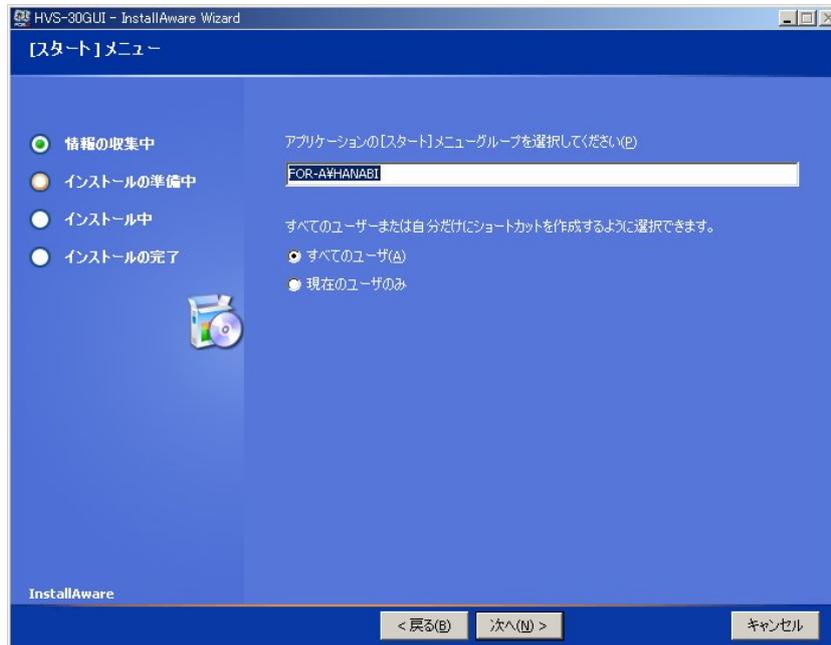
(6) HVS-30GUI のセットアップウィザードが起動したら、[次へ(N) >] をクリックします。



(7) インストールするフォルダを選択します。通常は変更する必要はありません。



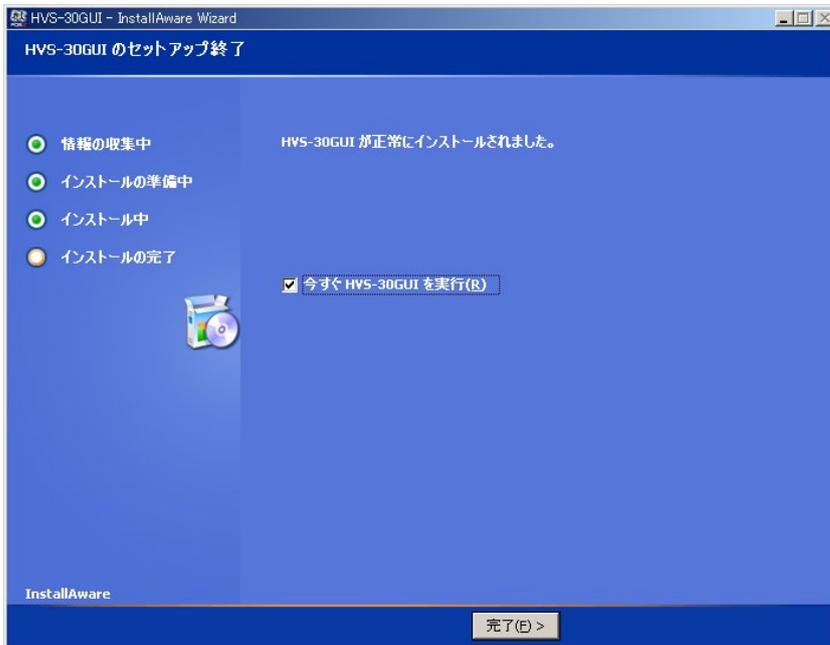
- (8) スタートメニューグループを選択します。通常は変更する必要はありません。また、HVS-30GUI を現在のユーザ用にインストールするか、または全てのユーザ用にインストールするかを選択します。初期値は「すべてのユーザ」です。各設定を選択後、[次へ (N) >] をクリックします。



- (9) インストール開始画面が表示されます。通常は、そのまま[次へ (N) >] をクリックし、インストールを開始します。



- (10) 正常にインストールが完了すると次の画面が表示されます。チェックボックスにチェックを入れて完了を押すと、インストールウィザード終了と共に HVS-30GUI が起動します。



## 1-4. ソフトウェアのアンインストール

HVS-30GUI を PC から削除する場合は、以下の手順に従ってアンインストールしてください。

- (1) コントロールパネルから [プログラムの追加と削除] を開き、[HVS-30GUI] を選択し、[削除] をクリックします。



- (2) [削除 (R)] を選択して [次へ (N) >] をクリックしてください。
- (3) アンインストールが終わったら [完了 (F)] ボタンを押して終了です。  
「Windows Installer 3.1」「Microsoft .NET Framework 2.0」はアンインストールする必要はありません。

## 1-5. PC のネットワーク設定

### ◆ MU (HVS-300HS) の出荷時 LAN 設定

IP アドレス	192.168.0.10
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.1.1

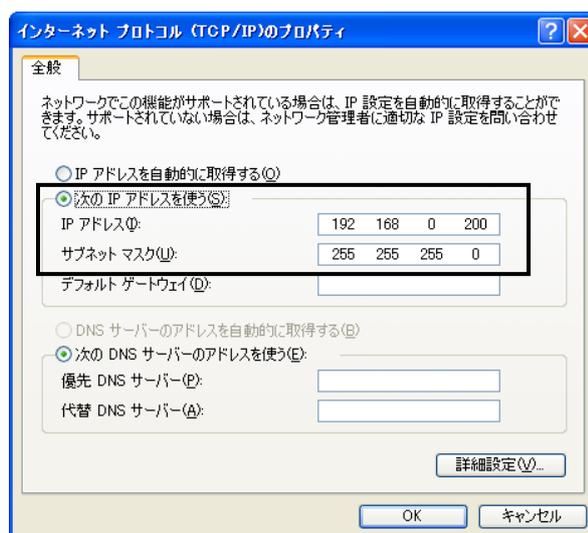
### ◆ PC のネットワーク設定 (HVS-300HS システムのみの LAN で使用する場合)

出荷時 LAN 設定の MU と接続するには、PC のネットワークを以下のように設定してください。

設定可能な IP アドレスの範囲	192.168.0.2～9, 192.168.0.11～254
サブネットマスク	255.255.255.0

### WindowsXP で [スタート] メニュー設定を変更していない場合

タスクバーの [スタート] メニューからコントロールパネルを開き「ネットワーク接続」をダブルクリックします。「ローカルエリア接続」のアイコンを右クリックして「プロパティ」を開きます。全般の「インターネットプロトコル (TCP/IP)」をダブルクリックするとプロパティが開きます。IP アドレスとネットマスクを入力します。



### WindowsXP で [スタート] メニュー設定をクラシック[スタート]メニューに変更している場合

タスクバーの [スタート] メニューから [設定] → [ネットワーク接続] を開き、「ローカルエリア接続」のアイコンを右クリックして「プロパティ」を開きます。全般の「インターネットプロトコル (TCP/IP)」をダブルクリックし、IP アドレスとネットマスクを入力します。

### 注意

PC のネットワーク設定方法は OS によって異なりますので、詳しくは OS のマニュアルを参照してください。なお、IP アドレスを元に戻す必要がある場合は、現在の設定をメモで残しておいてください。社内 LAN 等の既存の LAN 環境内で使用する場合は、ネットワーク管理者とご相談ください。

設定終了後 **OK** をクリックし、全てのウィンドウ (インターネットプロトコル、ローカルエリア接続のプロパティ) を閉じます。

## 1-6. ライセンス登録

---

HVS-30GUIは初回起動から30日間評価版として起動することができます。

評価版では機能制限はありませんが、試用期限の30日間を過ぎるとライセンス登録を行うまで操作が不可能となります。下記を参照してライセンス登録を行ってください。

### ◆ ライセンス登録方法

1. 上部メニューバーより[SystemInfo]->[License registration...]をクリックし、License registration ダイアログを表示します。
2. 左側の[Output UserID File...]ボタンをクリックします。任意の場所に userID ファイルを保存してください。
3. 2で保存した userID ファイルを電子メール等でご購入先または販売代理店にお送りください。折り返し License ファイルをお送り致します。
4. License ファイルが届きましたら、License registration ウィンドウ右側の[Input License File...]ボタンをクリックし、ファイル選択ダイアログで License ファイルを選択してください。

以上でライセンス登録が完了となります。

### 注意

License ファイルはお客様の PC 環境専用のファイルとなります。PC 入れ替えの際は、ご購入先または販売代理店にお問い合わせください。

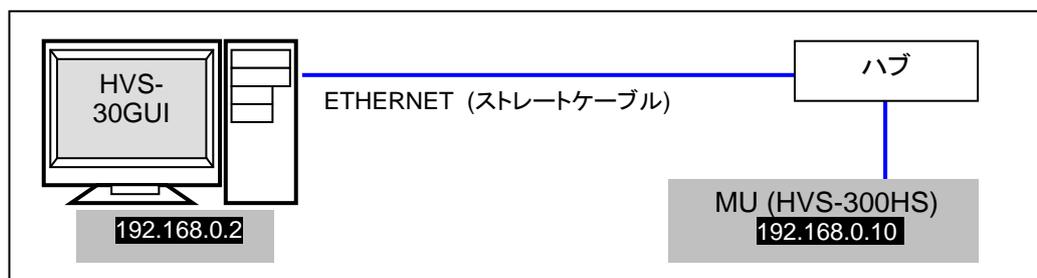
License ファイルはバックアップして保管しておいてください。OS のリカバリや再インストールなどで License ファイルが必要になる場合があります。

## 1-7. MU との接続

HVS-30GUIは同じ LAN 内にある MU だけでなく、別の LAN セグメントにある MU やインターネット (WAN) の向こう側にある MU ともリモートアクセスすることができます。以下の章では、接続例を使ってどのようにネットワーク接続を確立するかを説明します。

### 1-7-1. ローカル接続 (MU が 1 台の場合)

「1-5. PC のネットワーク設定」のようにネットワーク設定を行い、PC を LAN に接続すると、HVS-30GUI を起動するだけで自動的に MU との接続が確立します。

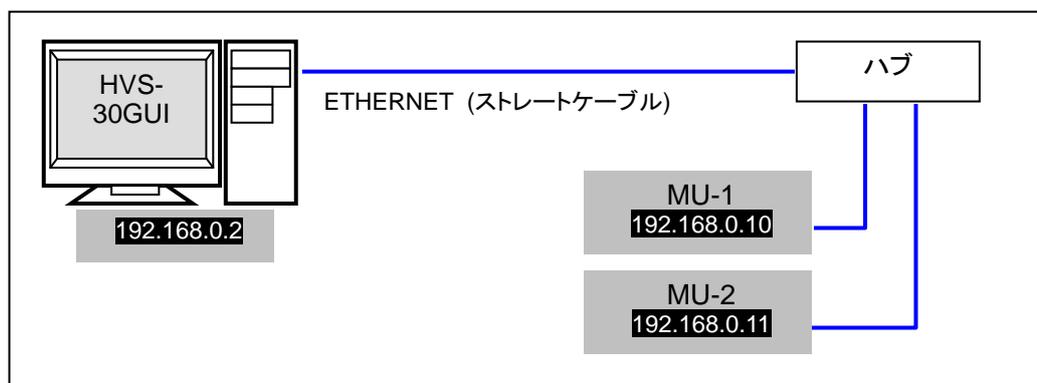


**注意** MU と PC を直接接続するときはクロスケーブルで接続してください。

### 1-7-2. ローカル接続 (MU が 2 台以上の場合)

2 台以上の MU が、下記のように同じ LAN 内で接続されている場合は、次のように接続します。

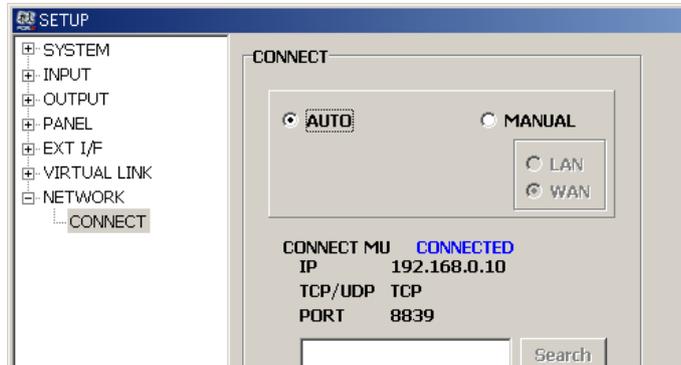
機器	IP アドレス	ネットマスク
PC	192.168.0.2	255.255.255.0
MU-1	192.168.0.10	255.255.255.0
MU-2	192.168.0.11	255.255.255.0



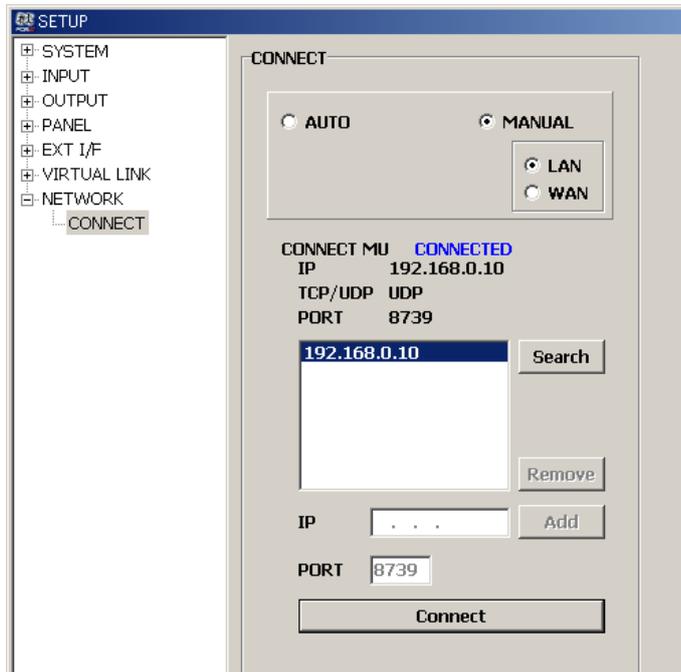
HVS-30GUI を起動すると、自動的に **MU-1** または **MU-2** との接続が確立します。もう一方の MU と接続したい場合は、次のように操作してください。

◆ 別の MU と接続する

- (1) メニューバーの **SETUP** をクリックし、**HVS-300HS Setup** を選択して SETUP ウィンドウを開きます。
- (2) 左ペインのツリーメニューから **NETWORK**、次いで **CONNECT** を選択します。ウィンドウ中央の接続情報から、現在 MU-1 (192.168.0.10) との接続が確立していることが分かります。



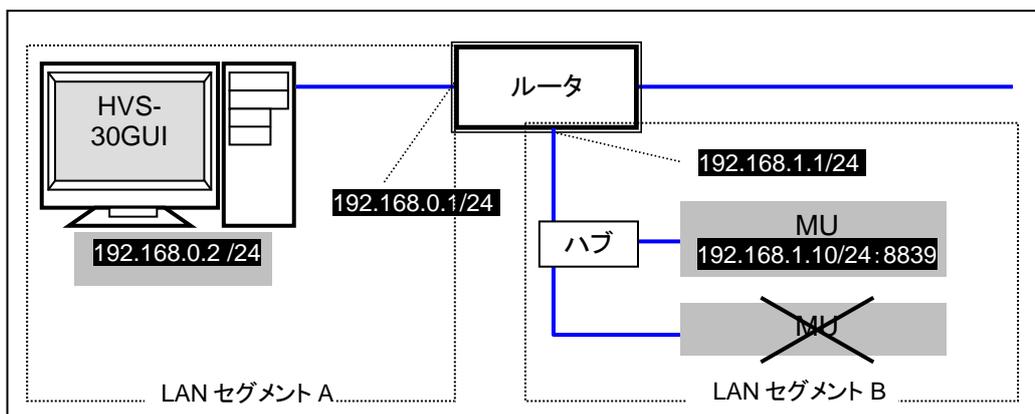
- (3) **Manual** をクリックし、**LAN** を選びます。
- (4) **Search** ボタンをクリックします。
- (5) **192.168.0.11** (MU-2 の IP アドレス) が MU リストに表示されます。
- (6) **192.168.0.11** (MU-2 の IP アドレス) を選択し、**Connect** ボタンをクリックします。
- (7) **MU-2** との接続が確立したことを確認してください。



### 1-7-3. ローカル接続 (MU が別の LAN にある場合)

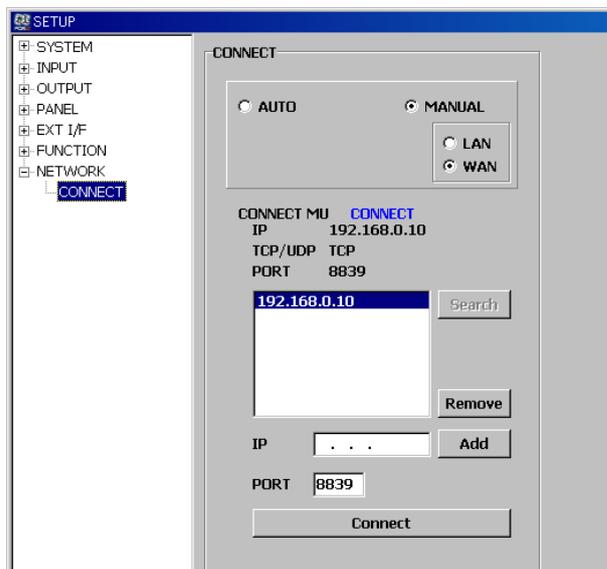
接続したい MU が下記のように別の LAN セグメントにある場合は、MU 検索を使って MU を表示させることはできません。このような場合はソフトウェアの WAN 機能を使用し、IP アドレスと TCP ポート番号を指定して接続します。

機器	IP アドレス	ネットマスク	ポート番号
PC	192.168.0.2	255.255.255.0	(自動)
MU	192.168.1.10	255.255.255.0	8839



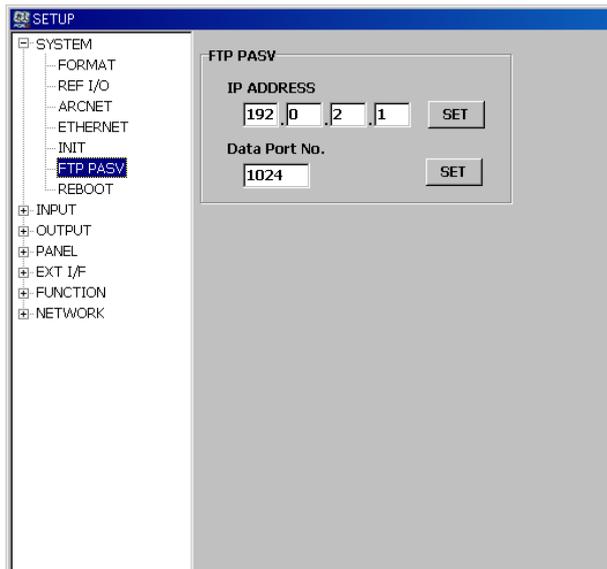
セグメント B 内は MU 一台だけにしてください。複数の MU が存在すると正しく接続できません。PC のデフォルトゲートウェイに **192.168.0.1** (ルータのアドレス) を指定してください。

- (1) HVS-30GUI を起動し、**SETUP-NETWORK-CONNECT** 画面を開きます。
- (2) **Manual** をクリックし、**WAN** を選びます。
- (3) **IP** ボックスに **192.168.1.10** (MU の IP アドレス) と入力します。ポート番号は **8839** のままにします。
- (4) **Add** ボタンを押し、MU リストに追加します。
- (5) 追加した IP アドレスを選択し、**Connect** ボタンをクリックします。
- (6) **MU** との接続が確立したことを確認してください。



WAN 機能使用時に STILL の送受信を行なう場合は、以下の設定を行なってください。

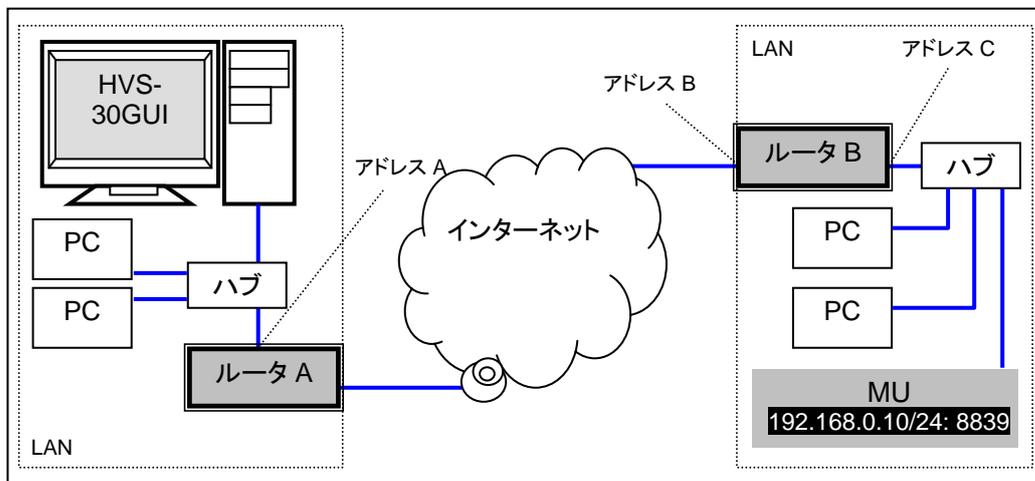
- (7) **SETUP-SYSTEM-FTP PASV** 画面を開きます。
- (8) **IP** ボックスに **192.168.1.10** (MU の IP アドレス) を入力して **SET** ボタンをクリックします。
- (9) **PORT** ボックスには 1024 以上のポート番号を入力してください。  
なお、ここで指定したポート番号は FTP のデータポートとして使います。



ルータの設定で、このポートと FTP コントロールポート(21 番)を使用できるようにしてください。設定方法等についてはご使用のルータ取扱説明書をご覧ください。

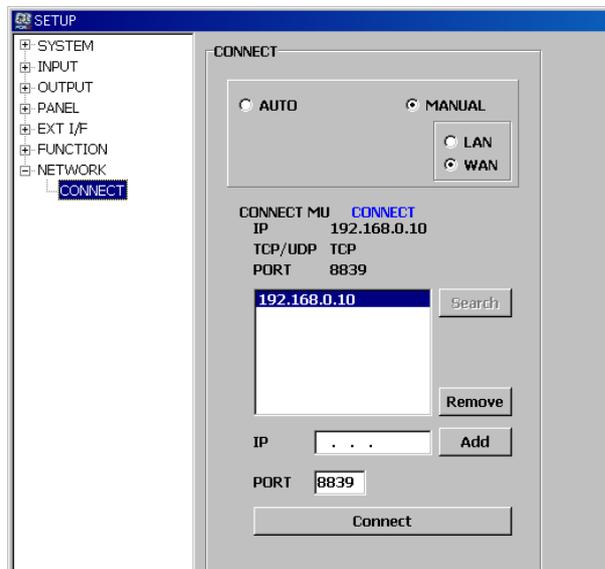
#### 1-7-4. インターネットを経由した接続

下図のようにインターネットを経由して MU と接続することができます。



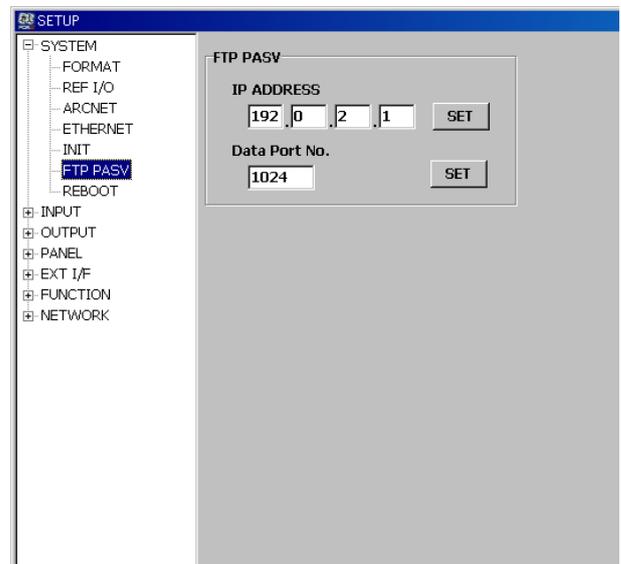
## ネットワークの構築方法

- PC のデフォルトゲートウェイには [アドレス A] を指定してください。
  - MU のデフォルトゲートウェイには [アドレス C] を指定してください。
  - ルータの設定については次ページを参照してください。
- HVS-30GUI では下記のようにして MU と接続します。
    - (1) HVS-30GUI を起動し、**SETUP-NETWORK-CONNECT** 画面を開きます。
    - (2) **Manual** をクリックし、**WAN** を選びます。
    - (3) **IP** ボックスに [アドレス B] (MU 側のルータ B のグローバル IP アドレス) と入力します。ポート番号は **8839** のままにします。
    - (4) **Add** ボタンを押し、リストに追加します。
    - (5) 追加した IP アドレスを選択し、**Connect** ボタンをクリックします。
    - (6) **MU** との接続が確立したことを確認してください。



WAN 機能使用時に STILL の送受信を行なう場合は、以下の設定を行なってください。

- (7) **SETUP-SYSTEM-FTP PASV** 画面を開きます。
- (8) **IP** ボックスにアドレス B (MU 側のルータアドレス) を入力して **SET** ボタンをクリックします。
- (9) **PORT** ボックスには 1024 以上のポート番号を入力してください。なお、ここで指定したポート番号は FTP のデータポートとして使います。



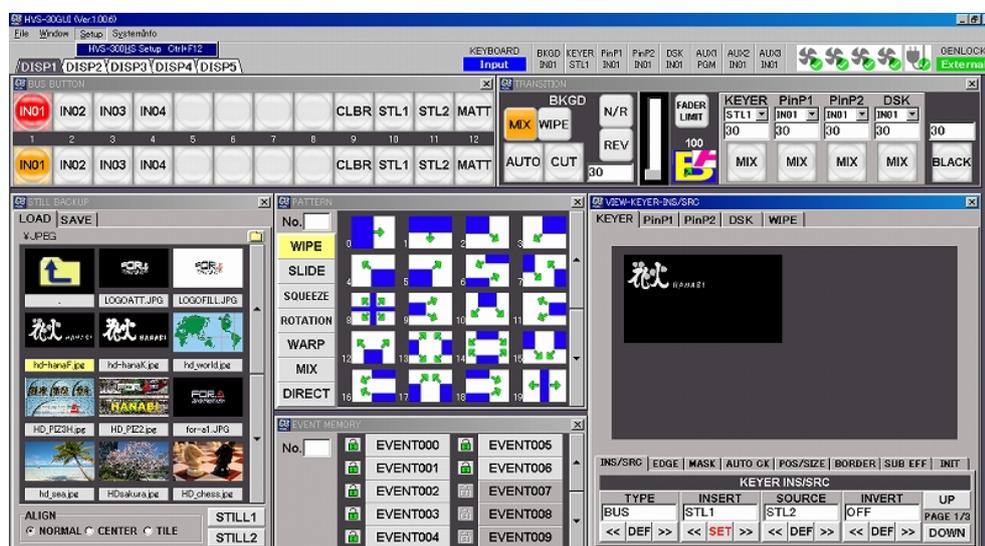


## 1-8. ソフトウェアの起動とフォーマット選択

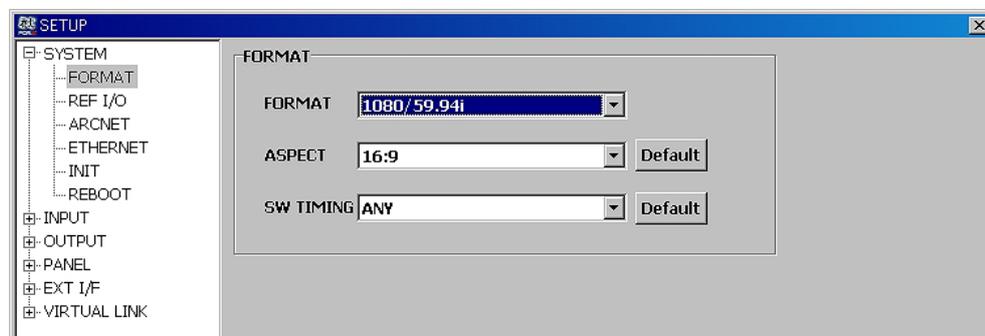
- (1) ソフトウェアの起動  
タスクバーの [スタート] メニューから [すべてのプログラム] → [FOR-A] → [HANABI] → [HVS-30GUI] を選択してソフトウェアを起動してください。
- (2) 初回起動時にはライセンスキー入力画面が表示されるので、ライセンスキーをお持ちの方はこちらで入力してください。

ライセンスキーを入力しなくとも、30日間に限り評価版として起動することが可能です。あとでライセンスキーを入力する場合は、画面上部メニューバーより[System Info] - [License registration...]をクリックし、ライセンスキー入力画面を表示して入力します。

- (3) メイン画面が表示されます。メニューバーの **SETUP** をクリックし、**HVS-300HS Setup** を選択し、SETUP ウィンドウを開きます。



- (4) 左側のツリーメニューから **FORMAT** を選択し、設定画面を開きます。
- (5) **FORMAT** 項目のプルダウンメニューから、TVフォーマットを選択してください。
- (6) **ASPECT** 項目のプルダウンメニューから、アスペクト比を選択してください。



- (7) 設定を変更し、ウィンドウのクローズボタン (右上) をクリックしてウィンドウを閉じます。HVS-300HS の再起動確認ダイアログが表示されます。**OK** をクリックし、HVS-300HS を再起動してください。

## 2. GUI 操作について

---

HVS-30GUI は、HVS-300HS または HVS-300RPS の標準コントロールパネルである HVS-300U とほぼ同様の操作をコンピュータの GUI 画面から操作することができますが、GUI を使うと容易になる操作、また GUI からできない操作がいくつかあります。

この取扱説明書では、基本的な GUI 画面の説明、HVS-300HS/RPS(以降 HVS-300HS と表記)の基本操作の他に HVS-30GUI と HVS-300U とで操作方法が大きく異なるものについて説明します。その他の詳しい操作については「HVS-300HS 取扱説明書」を参照してください。

### 2-1. GUI により容易になった操作

---

- GUI のモニタ画面からクロマキーのキーイング操作ができます。
- GUI のモニタ画面を使って位置の移動やサイズの変更ができます。
- イベントの保存／読み込みが容易です。
- サムネイルを見ながら STILL 画像を送信できます。
- GUI 画面のウィンドウを自由にカスタマイズできます。
- カラーピッカを使うことで、直感的に色を選択することができます。
- キーボードを使ったトランジション操作が可能です。

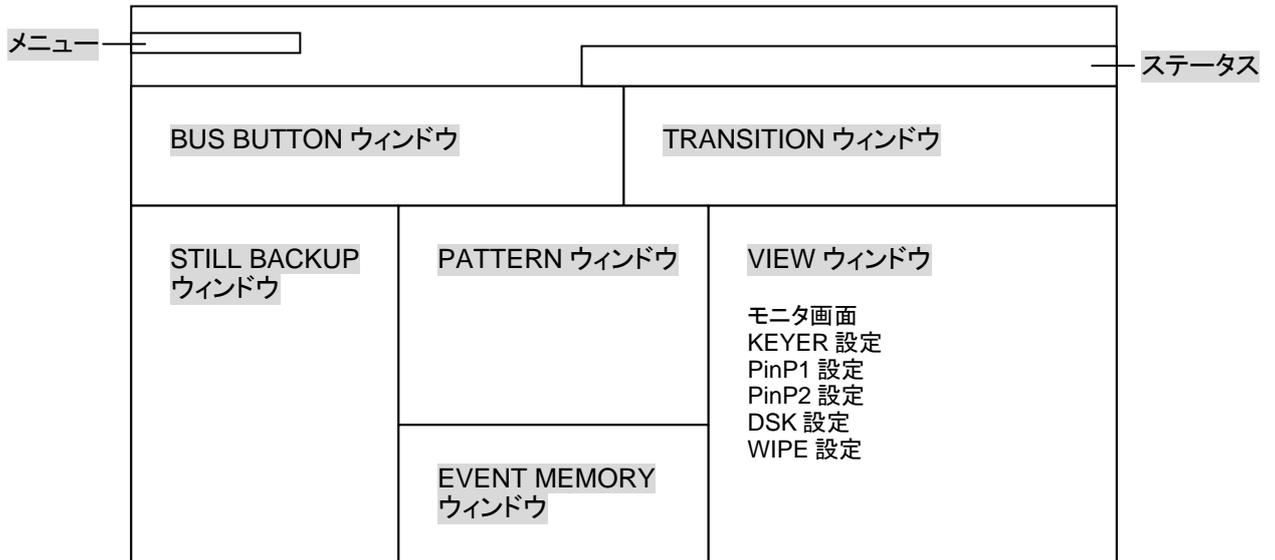
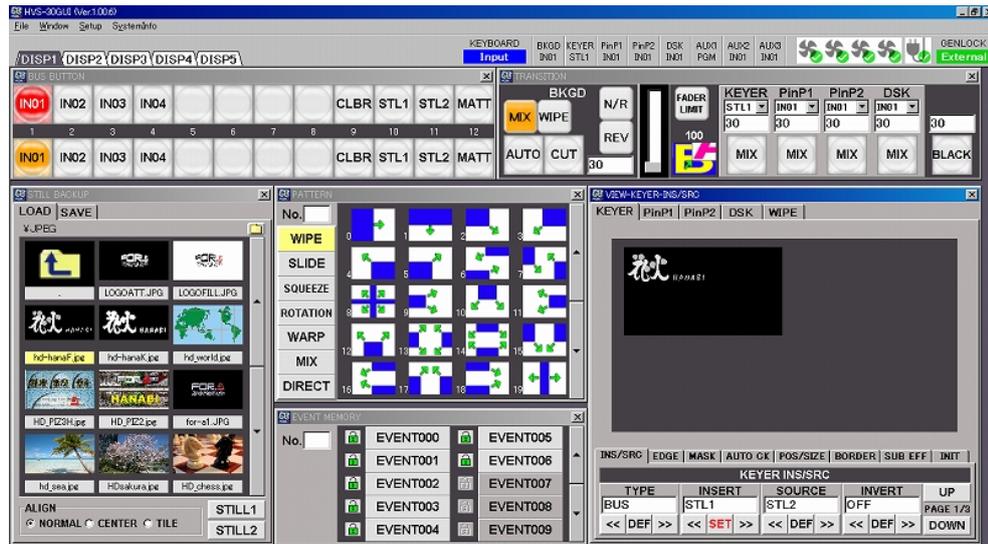
### 2-2. GUI でできない操作

---

- フェーダレバーを使った KEYSER トランジション
- USER BUTTON
- ジョイスティック操作  
→ 位置、サイズの変更はモニタ画面でマウスで操作できます。

## 2-3. メイン画面

メイン画面は下図のような構成になっています。



上の画面は初期設定 (標準レイアウト) 画面です。画面レイアウトは自由に変更することができます。(「2-4. 画面レイアウト」参照)

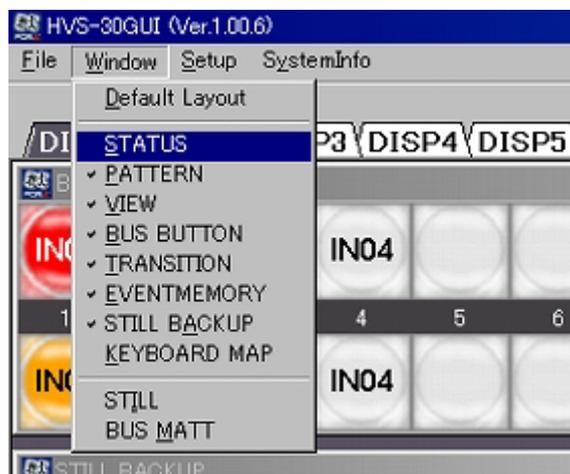
標準構成のウィンドウの他に、メニューバーから下記のウィンドウを開くことができます。

ウィンドウ	アクセス方法	参照
Load	File メニューから Load を選択します。	8
Save	File メニューから Save を選択します。	8
HVS-300HS Setup	Setup メニューから HVS-300HS Setup を選択します。	2-6
STATUS	Window メニューから STATUS を選択します。	
KEYBOARD MAP	Window メニューから KEYBOARD MAP を選択します。	9-1
STILL	Window メニューから STILL を選択します。	6
BUS MATT	Window メニューから BUS MATT を選択します。	
Version	System Info メニューから Version を選択します。	10-4
I/O Options	System Info メニューから I/O Options を選択します。	10-4

## 2-4. 画面レイアウト

### ◆ ウィンドウの表示／非表示

必要なウィンドウだけを表示して不要なウィンドウは非表示にすることができます。メニューバーからプルダウンメニューを開き、ウィンドウ名をクリックします。ウィンドウ名の左にチェックが表示されると、ウィンドウが表示されます。再度クリックし、チェックがなくなると非表示になります。下図は **Window** メニューの例です。



#### 注意

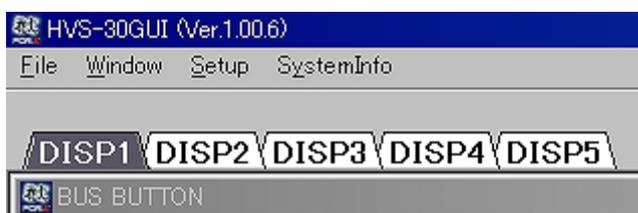
STILL ウィンドウ、BUS MATT ウィンドウは常時表示させることはできません。他のウィンドウで操作を行う場合は、STILL ウィンドウまたは BUS MATT ウィンドウを閉じてから行ってください。

### ◆ メイン画面を標準レイアウトに戻す

メニューバーの **Window** をクリックし、一番上の **Default Layout** をクリックします。メイン画面が標準レイアウトに戻ります。

### ◆ 5種類のメイン画面レイアウト

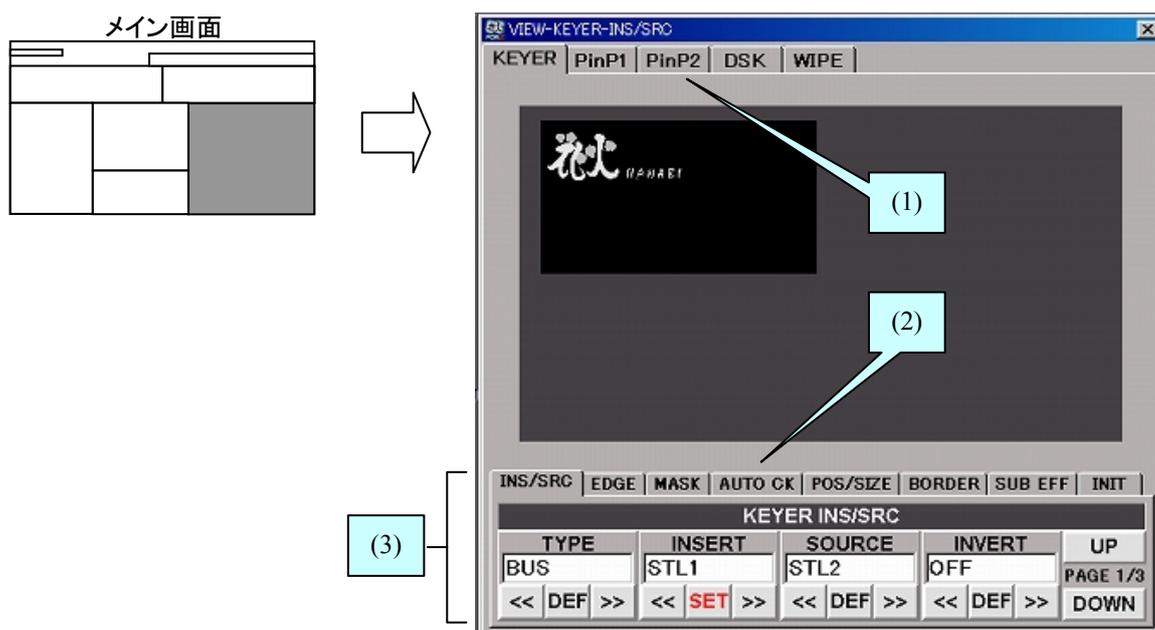
5種類のメイン画面レイアウトを保存することができます。メニューバーの下にある **DISP1～DISP5** タブを使って画面レイアウトを切り換えてください。各タブ画面を開き、使用したいウィンドウを表示し、使用しないウィンドウを非表示にします。画面レイアウトはソフト終了後も保持されます。



## 2-5. KEYER、PinP、DSK、WIPE メニューの表示

KEYER、PinP1、PinP2、DSK、WIPE チャンネルの設定は、メイン画面右下の **VIEW** ウィンドウで行います。

- (1) **VIEW** ウィンドウ上部のタブでチャンネルを選択します。
- (2) **VIEW** ウィンドウ中央のタブで設定したい項目を選択します。
- (3) **VIEW** ウィンドウ下部にパラメータが表示されます。複数ページあるメニューは、右下にある **UP**、**DOWN** ボタンでページを切り換えます。



## 2-6. SETUP メニューの表示

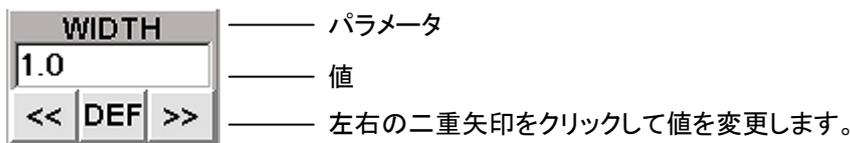
メニューバーの **SETUP** をクリックし、**HVS-300HS Setup** を選択して SETUP ウィンドウを開きます。左側のツリーメニューから設定したい項目を選択し、右側の設定画面に表示します。



SETUP メニューの内容については「HVS-300HS 取扱説明書」を参照してください。  
値の入力、設定方法については「2-7. 数値入力とメニュー設定」を参照してください。

## 2-7. 数値入力とメニュー設定

### ◆ 基本操作



ボタン	操作方法
<<	値を減らします。 HVS-300U の <b>F1</b> – <b>F4</b> のつまみを反時計方向へ回すのと同じ動作です。
>>	値を増やします。 HVS-300U の <b>F1</b> – <b>F4</b> のつまみを時計方向へ回すのと同じ動作です。
DEF	値を初期値に戻します。HVS-300U のつまみの長押しと同じ動作です。 OU でつまみを押して値を確定する項目は、 <b>DEF</b> ボタンが <b>SET</b> ボタンになります。

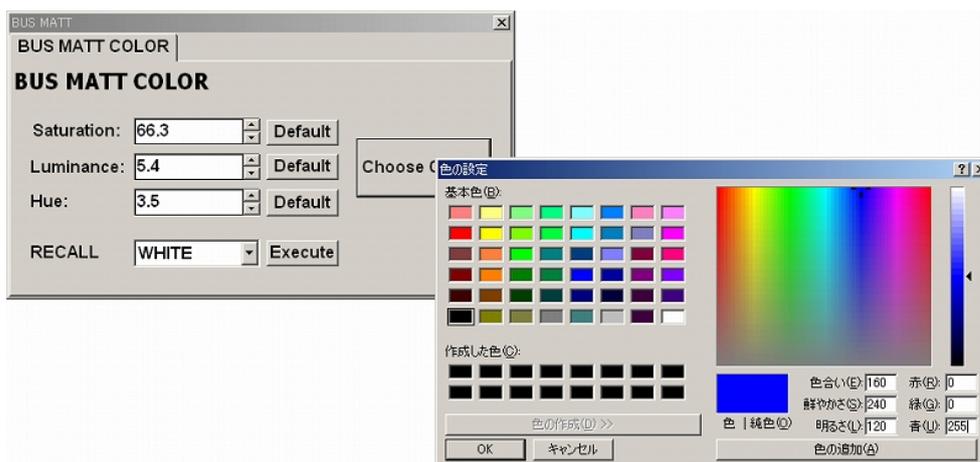
### ◆ キーボード入力



- (1) テキストボックス内をクリックします。
- (2) キーボードで数値または文字列を入力します。
- (3) キーボードの [Enter] を押します。

### ◆ 色の選択

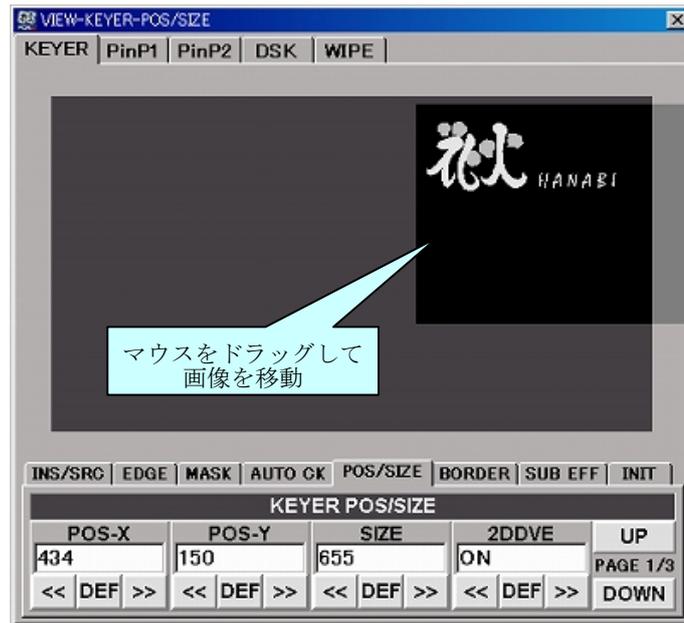
BUS MATT メニューや MV の BORDER COLOR メニューではカラーピッカを使って色が設定できます。**ChooseColor** ボタンをクリックしてカラーピッカを表示し、色を設定してください。



◆ 特別なマウス操作

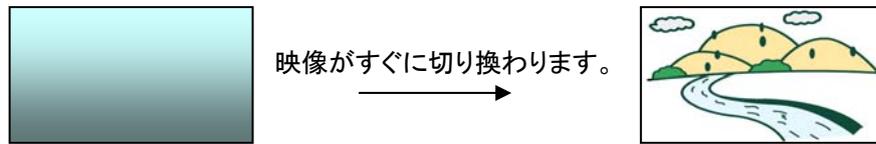
下記のように特別なマウス操作により値が変更できるパラメータもあります。

パラメータ	メニュー	操作方法
POSITION	KEYER-AUTO CK	モニタ画面上をクリック後、マウスの左ボタンを押しながらドラッグします。ドラッグしている間、値が変わります。左ボタンを離すと、画像(クロマキーカーソル)が、離れた位置に移動します。
POSITION	PinP-POS/SIZE KEYER-POS/SIZE DSK-POS/SIZE	
SIZE	PinP-POS/SIZE KEYER-POS/SIZE DSK-POS/SIZE	VIEW ウィンドウをアクティブにした後、マウスのホイールを回します。

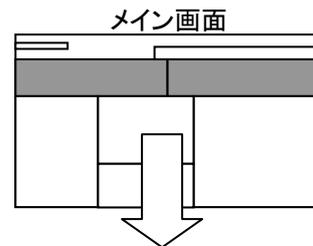


### 3. バックグラウンドトランジション

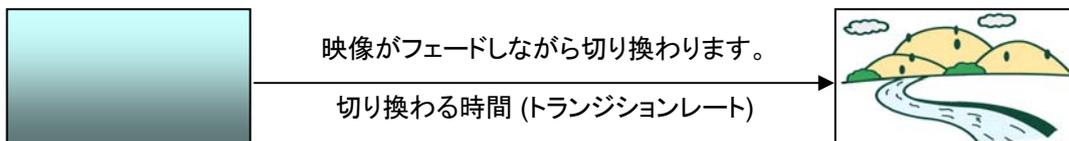
#### 3-1. CUT



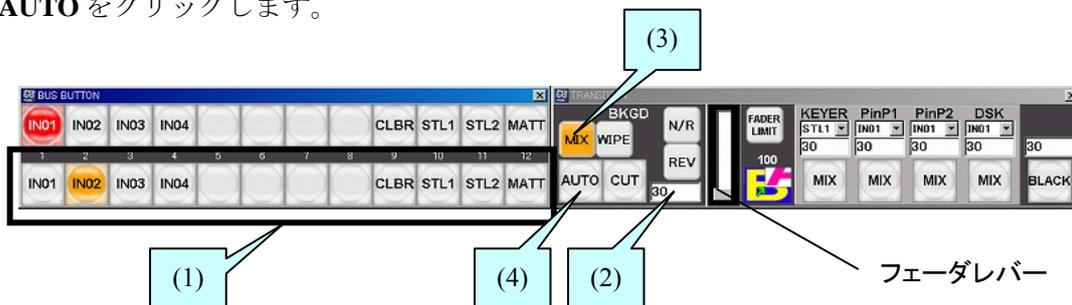
- (1) PSTバスのボタンをクリックし、次に出力する映像を選択します。
- (2) **CUT** をクリックします。



#### 3-2. MIX

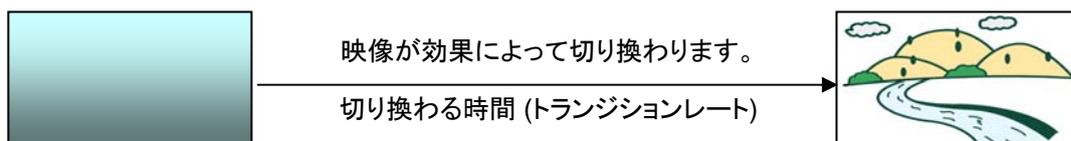


- (1) PSTバスのボタンをクリックし、次に出力する映像を選択します。
- (2) トランジションレートを入力します。ボックス内をクリックし数値を入力し、[Enter]を押します。単位はフレームです。
- (3) **MIX** をクリックします。
- (4) **AUTO** をクリックします。



**AUTO** をクリックする代わりに、フェーダレバーをマウスでドラッグすると、トランジションレートに関係なく、手動でMIXトランジションを実行できます。

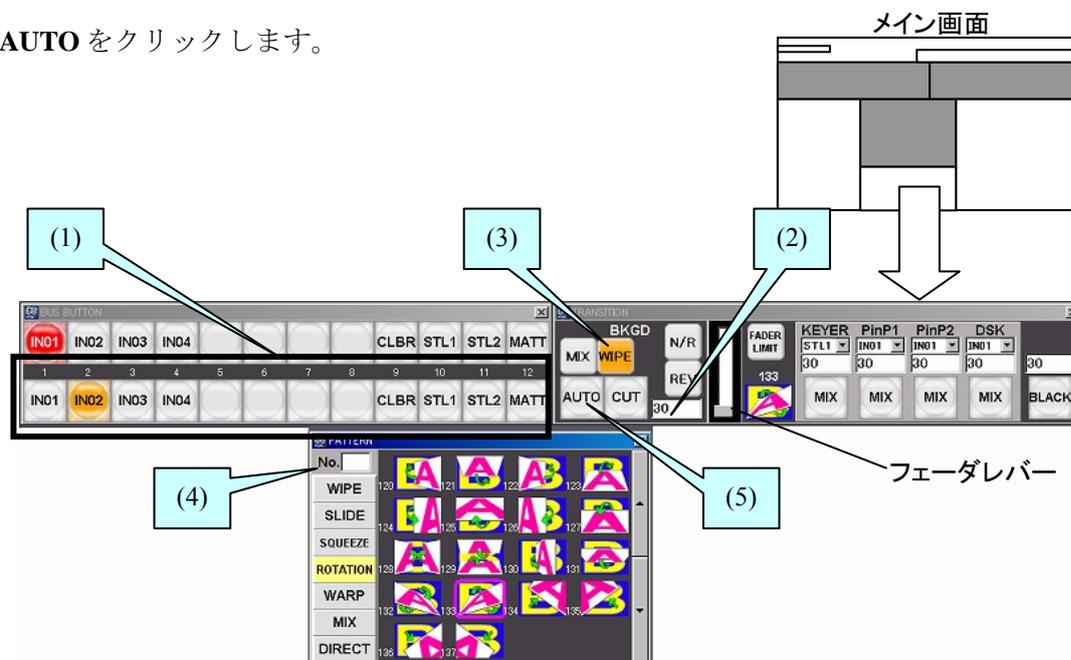
### 3-3. WIPE



- (1) PST バスのボタンをクリックし、次に出力する映像を選択します。
- (2) トランジションレートをを入力します。ボックス内をクリックし数値を入力し、[Enter] を押します。単位はフレームです。
- (3) **WIPE** をクリックします。
- (4) **PATTERN** ウィンドウ左のボタンを押して使用したいパターンタイプを表示し、使用したいパターンをクリックしてください。(下表「WIPE パターン」参照)

パターン番号を入力してパターンを選択することも可能です。No. ボックス内をクリックして、番号を入力し、[Enter]キーを押します。ダイレクトパターンの選択はできません。

- (5) **AUTO** をクリックします。



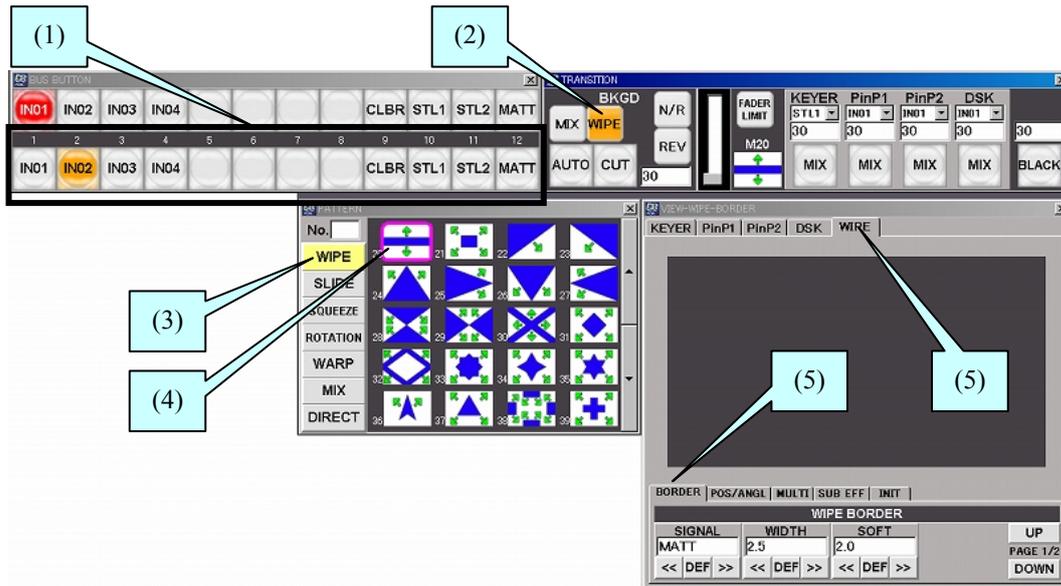
#### ◆ WIPE パターン

WIPE カテゴリボタン	パターン番号
WIPE	000～099
SLIDE	100～107
SQUEEZE	108～119
ROTATION	120～137
WARP	140～147, 150～157, 161～162
MIX	200～202
DIRECT	ダイレクトパターンに保存されている 10 個のパターン

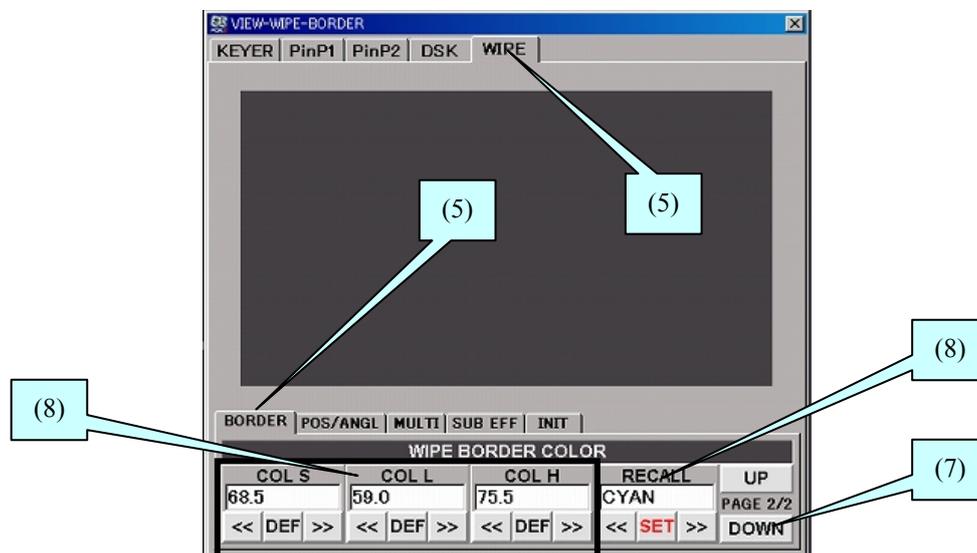
### 3-4. WIPE モディファイ例 (パターン 20)

ここではバックグラウンドトランジションにパターン 20 を使用し、ボーダ効果を追加する例を紹介します。

- (1) PST バスでバックグラウンドに使用する信号を選びます。
- (2) **TRANSITION** ウィンドウで **WIPE** をクリックします。
- (3) **PATTERN** ウィンドウで **WIPE** をクリックします。
- (4) 下矢印バーをクリックし、**パターン 20** を表示し、アイコンをクリックします。
- (5) **VIEW** ウィンドウ上部のタブで **WIPE** を、次に中央のタブで **BORDER** をクリックします。**VIEW** ウィンドウの下部に [WIPE- BORDER]メニューが表示されます。



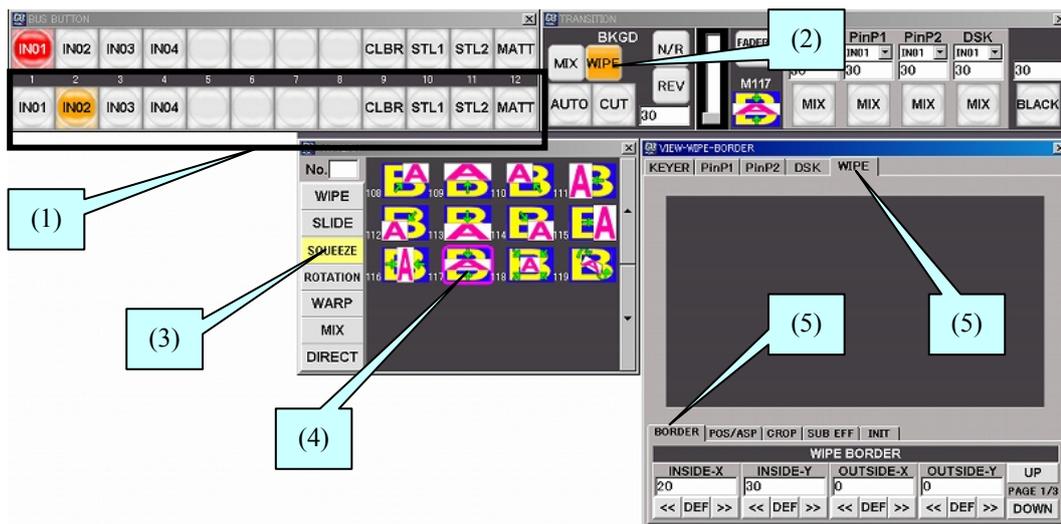
- (6) **SIGNAL** ボックスで、ボーダに使用する信号を選択します。ここでは **MATT** を選びます。**WIDTH** ボックスでボーダ幅を、**SOFT** ボックスで輪郭の交わり具合を設定してください。左右の二重矢印をクリックして設定します。
- (7) **DOWN** をクリックし、メニューの PAGE 2 へ移動します。
- (8) **RECALL** ボックスで 8 つのスタンダードカラーから色を選択します。または COL\_S (Saturation)、COL\_L (Luminance)、COL\_H (Hue) の値をキーボード入力して色を指定してください。ボックスへ入力後、それぞれ [Enter] を押して確定します。



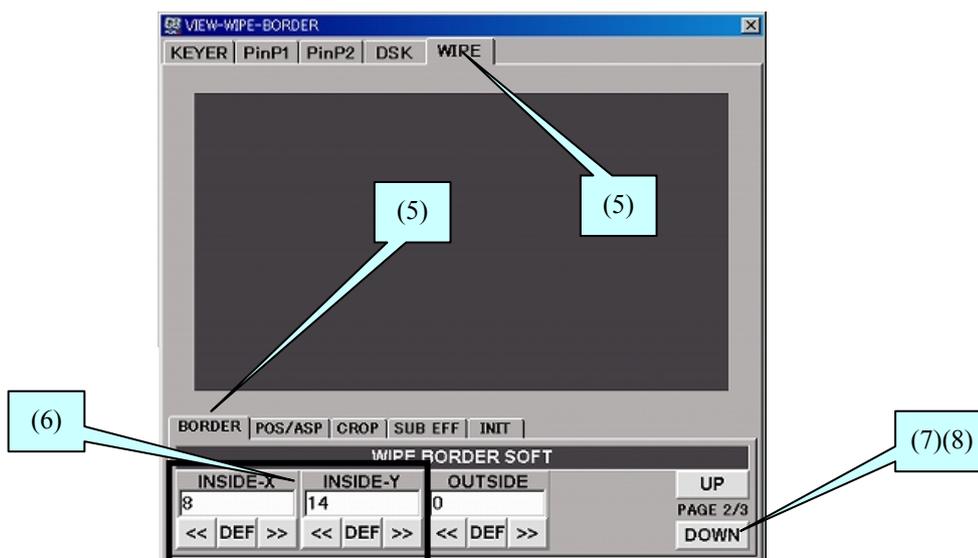
### 3-5. DVE モディファイ例 (パターン 117)

ここではバックグラウンドトランジションにパターン 117 を使用し、ボーダを追加する操作例を紹介します。

- (1) PST バスでバックグラウンドに使用する信号を選びます。
- (2) **TRANSITION** ウィンドウで **WIPE** をクリックします。
- (3) **PATTERN** ウィンドウで **SQUEEZE** をクリックします。
- (4) パターン 117 のアイコンをクリックします。
- (5) **VIEW** ウィンドウ上部のタブで **WIPE**、次に中央のタブで **BORDER** をクリックします。  
**VIEW** ウィンドウの下部に [WIPE- BORDER]メニューが表示されます。



- (6) 内側と外側のボーダが使用できます。ここでは内側のボーダを使用します。左右の二重矢印をクリックし、**INSIDE X**、**Y** ボックスでボーダ幅を設定してください。
- (7) **DOWN** をクリックし、メニューの PAGE 2 へ移動します。**INSIDE X**、**Y** ボックスで輪郭の交わり具合を設定してください。



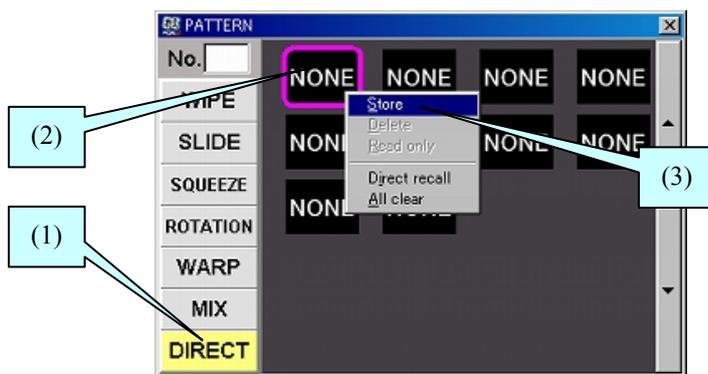
- (8) **DOWN** をクリックし、メニューの PAGE 3 へ移動します。**RECALL** ボックスで 8 つのスタンダードカラーから色を選択します。または **COL\_S** (Saturation)、**COL\_L** (Luminance)、**COL\_H** (Hue) の値をキーボード入力して色を指定してください。ボックスへ入力後、それぞれ [Enter] を押して確定します。

## 3-6. ダイレクトパターン選択

ダイレクトパターンとは、パターンを登録して直接呼び出すことができる機能です。ダイレクトパターンにはモディファイ情報も含め WIPE、DVE パターンを合わせて 10 個まで登録することができます。頻繁に使用するパターンを登録しておく便利です。

### 3-6-1. ダイレクトパターンの登録

- (1) PATTERN ウィンドウの **DIRECT** ボタンをクリックします。
- (2) 10 個の保存領域から保存先を選び、マウスを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- (3) ポップアップメニューから **Store** を選択します。
- (4) 現在選択されている WIPE パターンとそのモディファイ情報が登録されます。



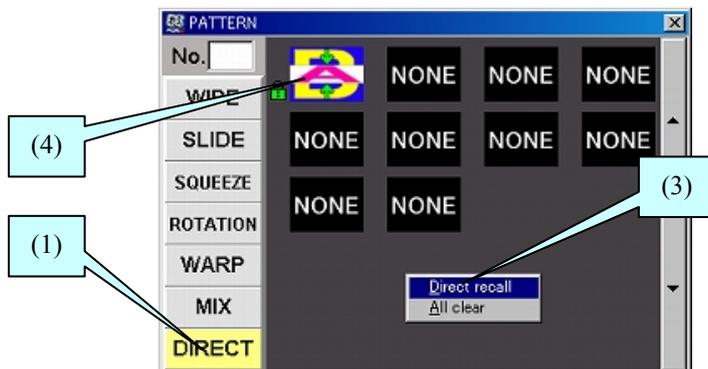
### 3-6-2. ダイレクトパターン選択

#### ◆ DIRECT RECALL モードを使う

- (1) PATTERN ウィンドウの **DIRECT** ボタンをクリックします。
- (2) DIRECT RECALL モードを有効にするため、PATTERN ウィンドウ上でマウスを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- (3) ポップアップメニューから **Direct recall** を選択します。

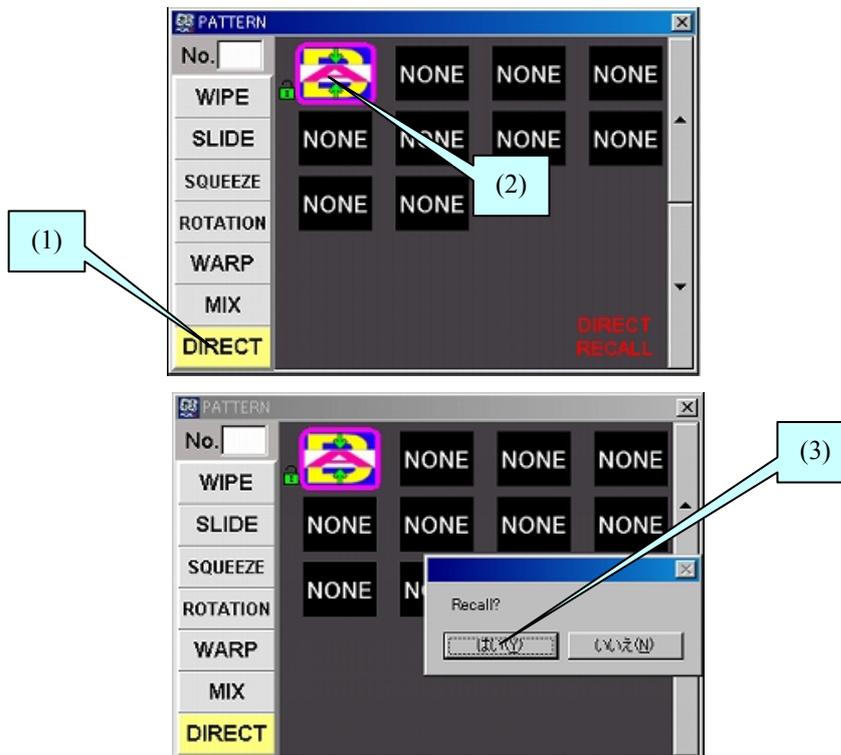
DIRECT RECALL モードは一度有効にすると、OFF にするまで有効です。DIRECT RECALL モード中は右下に **DIRECT RECALL** の文字が表示されます。

- (4) 使用したいパターンをクリックして選びます。



◆ **RECALL** ダイアログを使う

- (1) **PATTERN** ウィンドウの **DIRECT** ボタンをクリックします。
- (2) 使用したいパターンをクリックして選びます。
- (3) 確認ダイアログが表示されます。はいを選択すると、パターンが読み込まれます。



### 3-6-3. ダイレクトパターンの上書き禁止

- (1) **PATTERN** ウィンドウの **DIRECT** ボタンをクリックします。
- (2) 上書き禁止にしたい **PATTERN** 上でマウスを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- (3) ポップアップメニューから **Read only** を選択します。

パターンの左の錠前のアイコンは、上書き禁止の時は赤に、上書き可能なときは緑になります。

### 3-6-4. ダイレクトパターンの削除

◆ **ひとつのパターンの削除**

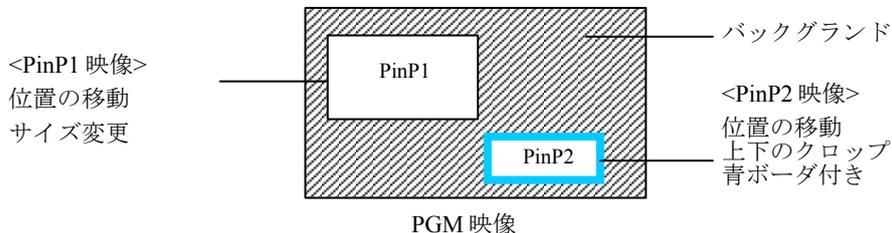
- (1) **PATTERN** ウィンドウの **DIRECT** ボタンをクリックします。
- (2) 削除したい **PATTERN** 上でマウスを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- (3) ポップアップメニューから **Delete** を選択します。選択したダイレクトパターンが削除されます。

◆ **全パターンの全削除**

- (1) **PATTERN** ウィンドウの **DIRECT** ボタンをクリックします。
- (2) **PATTERN** ウィンドウ上でマウスを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- (3) ポップアップメニューから **All clear** を選択します。はいを選択すると、すべてのダイレクトパターンが削除されます。

## 4. ピクチャ・イン・ピクチャ

ピクチャ・イン・ピクチャ (PinP) とは、1画面の中に小さい画像をはめ込むことができる機能です。PinP機能を使用すると、バックグラウンドの上に2枚の子画面 (PinP1 と PinP2) を挿入することができます。PinP1 と PinP2 の操作方法は同じです。この章では下図のような映像の作成を例にピクチャ・イン・ピクチャのセットアップ方法を説明します。



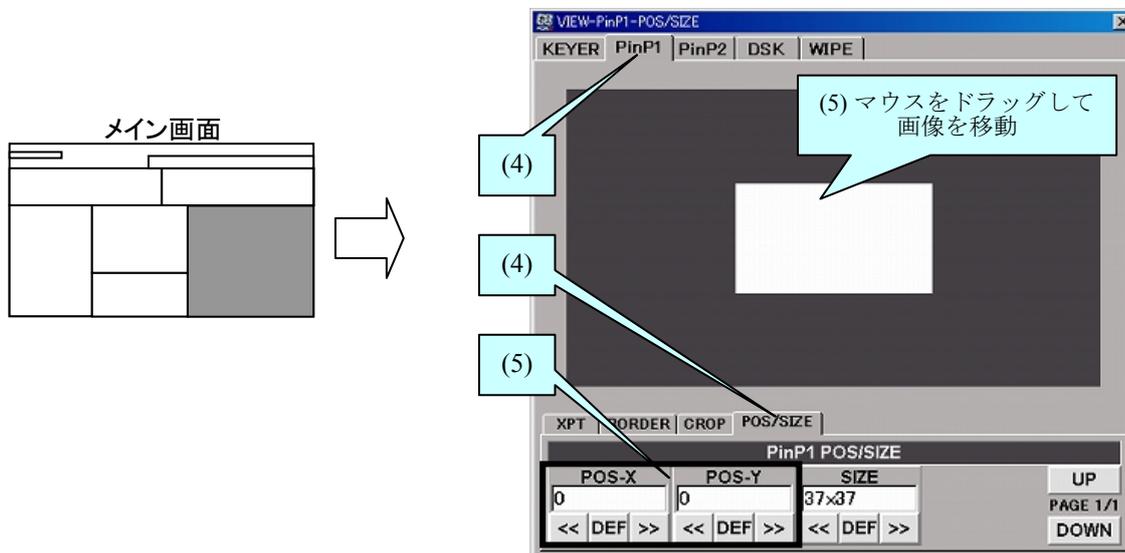
### 4-1. ピクチャ・イン・ピクチャのセットアップ

#### ◆ PinP1 のセットアップ

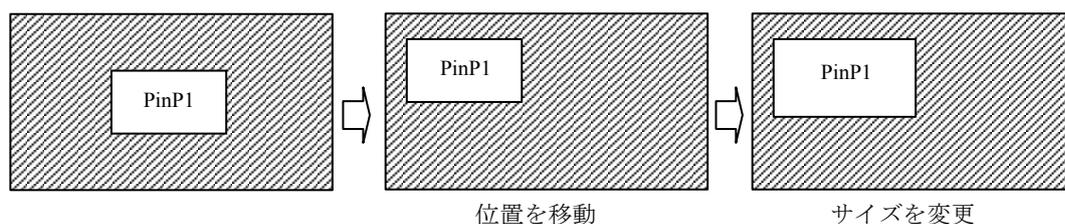
- (1) **TRANSITION** ウィンドウの PinP1 列で、映像選択ボックスをクリックしプルダウンメニューを表示して、映像を選択します。
- (2) トランジションレートボックスにトランジションレートを入力します。ボックス内をクリックし数値を入力し、[Enter] を押します。単位はフレームです。
- (3) PinP1 のトランジション**実行ボタン**をクリックし PinP1 映像を PGM 画面へ出力します。



- (4) **VIEW** ウィンドウ上部のタブで **PinP1** を、次に中央のタブで **POS/SIZE** をクリックし、[PinP1-POS/SIZE] メニューを表示します。
- (5) モニタ画面上でマウスの左ボタンを押しながらドラッグします。カーソルの移動にあわせて PinP1 画像の位置が移動します。左ボタンを離すと、移動が止まります。**POSITION (X, Y)** ボックスに数値を入力して移動させることもできます。



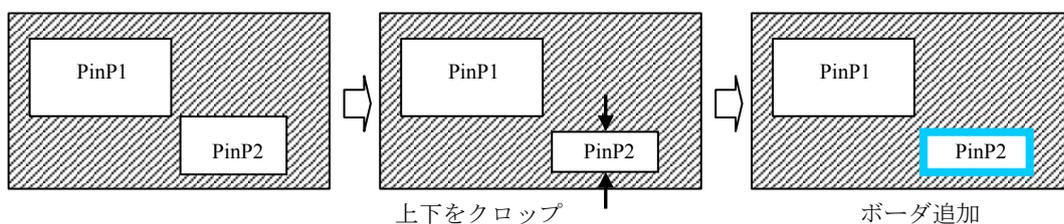
- (6) マウスホイールを回し、サイズを調整します。



画面の中心が位置を表す座標の原点 (0,0) になります。PinP 映像の中心点で位置を設定します。また、HD モード時には、アスペクト比を 4 : 3 に変更できます。

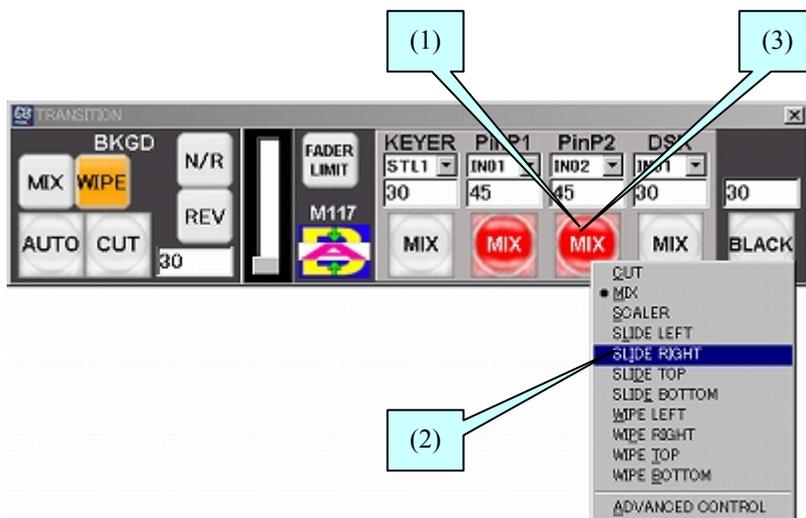
◆ **PinP2 のセットアップ**

- (1) PinP1 と同様に、PinP2 の映像を選択し、トランジションレートを設定します。
- (2) PinP2 のトランジション**実行**ボタンをクリックし、映像を PGM 画面へ出力します。
- (3) **VIEW** ウィンドウ上部のタブで **PinP2** を、次に中央のタブで **CROP** をクリックし、[PinP2 - CROP]メニューを表示します。
- (4) **TOP** ボックスをクリックし **30** と入力し、[Enter] を押します。同様に **BOTTOM** を **20** に設定します。
- (5) **VIEW** ウィンドウ中央のタブで **BORDER** をクリックし、[PinP2 - BORDER]メニュー表示します。
- (6) **WIDTH** ボックス下の二重矢印をクリックし、ボーダ幅を **5** に設定します。
- (7) **VIEW** ウィンドウ右下の **DOWN** ボタンをクリックします。
- (8) [PinP2 BORDER COLOR] メニューで **RECALL** ボックスの二重矢印をクリックし、ボーダの色に **BLUE** を選び、**SET** ボタンをクリックします。



## 4-2. PinP の IN/OUT

- (1) PinP1(または PinP2) 列のトランジション実行ボタン上で、マウスを右クリックします。
- (2) 表示されたポップアップメニューから、トランジションタイプを選択します。CUT、MIX、SCALER、SLIDE (4方向)、WIPE (4方向) が選択可能です。
- (3) PinP1(または PinP2) 列のトランジション実行ボタンをクリックすると、PinP1 (または 2) が PGM 画面に表示されます。再度押すと PGM 画面から消えます。



### ◆ アドバンストオートトランジション

- (1) 次のようにしてアドバンストオートトランジション設定を有効にします。
  - a) トランジション実行ボタン上でマウスを右クリックし、ポップアップメニューを表示します。
  - b) **ADVANCED CONTROL** の左にチェックが付いていれば、アドバンストオートトランジションが有効になっています。チェックが付いていなければ、**ADVANCED CONTROL** をクリックしてください。
- (2) トランジション実行ボタンを押す長さでトランジションタイプが切り換わります。
  - マウスの左ボタンをクリック  
→CUT トランジションを実行します。
  - マウスの左ボタンを長く押す  
→表示中のトランジションタイプでトランジションを実行します。

## 5. KEYER と DSK

キーを使用すると、バックグラウンドの上にタイトルやテロップや別の画像を挿入することができます。HVS-300HS には KEYER と DSK という 2 つのキーが装備されています。KEYER と DSK ではルミナンスキー、フルキー、バスキーという 3 タイプのキーを使用することができます。また KEYER ではクロマキーも使用できます。

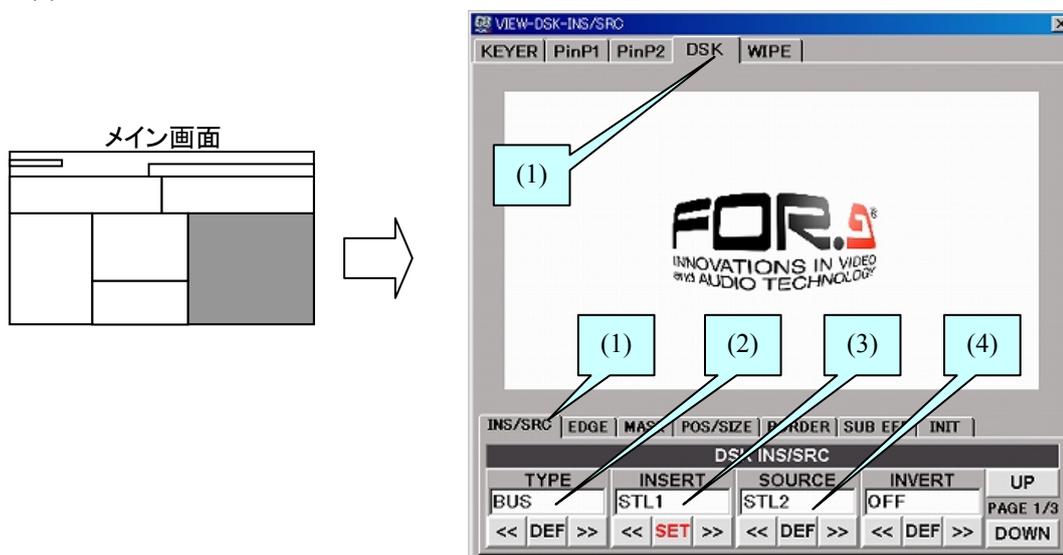
この章では DSK のバスキーのセットアップ手順を使って操作方法を説明します。詳しい操作については「HVS-300HS 取扱説明書」－「KEYER と DSK」の章を参照してください。

### 5-1. バスキーのセットアップ

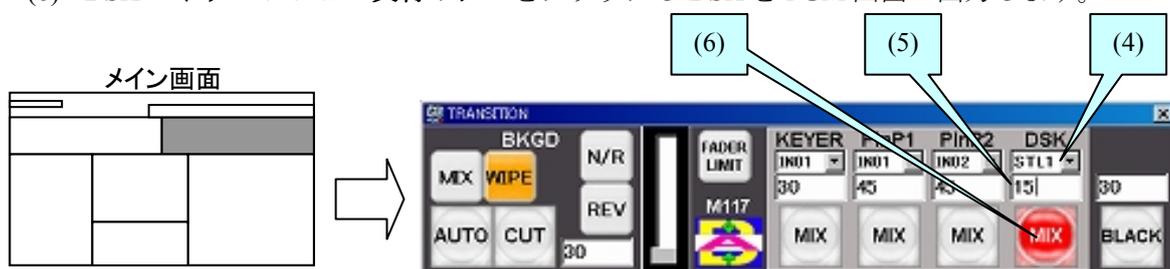
- (1) **VIEW** ウィンドウ上部のタブで **DSK** を、次に中央のタブで **INS/SRC** をクリックし、[DSK-INS/SRC] メニューを表示します。
- (2) 二重矢印をクリックし、**TYPE** 項目を **BUS** に設定します。
- (3) **INSERT** ボックスをクリックし、左右の二重矢印をクリックして信号名を選びます。**TRANSITION** ウィンドウの DSK 列で、信号選択ボックスをクリックし、プルダウンメニューを表示して選択することもできます。(一度キーソースとキーインサートのペアを選択すれば、次からはキーインサートを選択だけで自動的にキーソースも選択できます。この機能をキーリンクといいます。)

※ キーリンクの有効/無効は、メニューバーの[Setup-HVS-300HS Setup]の Setup ウィンドウ内、[PANEL - KEY CTRL - LINK] 項目で設定します。

- (4) **SOURCE** ボックスをクリックし、左右の二重矢印をクリックして信号名を選びます。



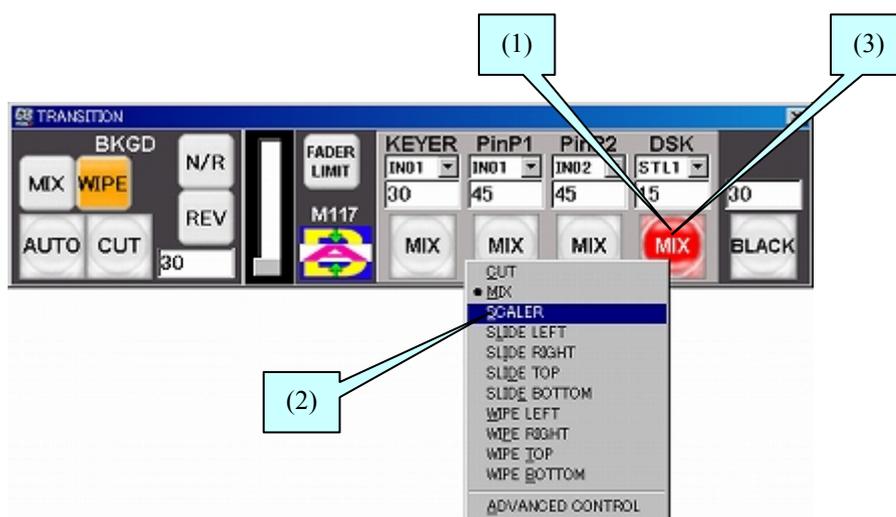
- (5) **TRANSITION** ウィンドウのトランジションレートボックスにトランジションレートを入力します。ボックス内をクリックして数値を入力し、[Enter] を押します。単位はフレームです。
- (6) DSK のトランジション実行ボタンをクリックし DSK を PGM 画面へ出力します。



キーの抜け具合は GAIN/CLIP で調整することができます。キーの反転 (INVERT)、キーマスク、エッジ、2DDVE 効果も使用できます。詳しくは HVS-300HS の「KEYER と DSK」を参照してください。

## 5-2. DSK の IN/OUT 効果

- (1) DSK のトランジション実行ボタン上で、マウスを右クリックします。
- (2) 表示されたポップアップメニューから、トランジションタイプを選択します。CUT、MIX、SCALER、SLIDE (4 方向)、WIPE (4 方向) が選択可能です。
- (3) DSK のトランジション実行ボタンをクリックすると、DSK が PGM 画面に表示されます。再度押すと PGM 画面から消えます。



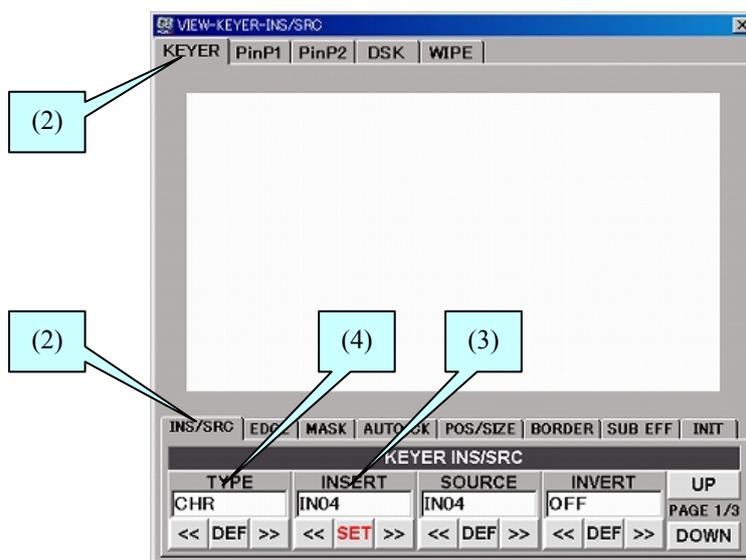
### ◆ アドバンストオートトランジション

- (1) 次のようにしてアドバンストオートトランジション設定を有効にします。
  - a) トランジション実行ボタン上でマウスを右クリックし、ポップアップメニューを表示します。
  - b) **ADVANCED CONTROL** の左にチェックが付いていれば、アドバンストオートトランジションが有効になっています。チェックが付いていなければ、**ADVANCED CONTROL** をクリックしてください。
- (2) トランジション実行ボタンを押す長さでトランジションタイプが切り換わります。
  - マウスの左ボタンをクリック  
→CUT トランジションを実行します。
  - マウスの左ボタンを長く押す  
→表示中のトランジションタイプでトランジションを実行します。

### 5-3. クロマキーのセットアップ

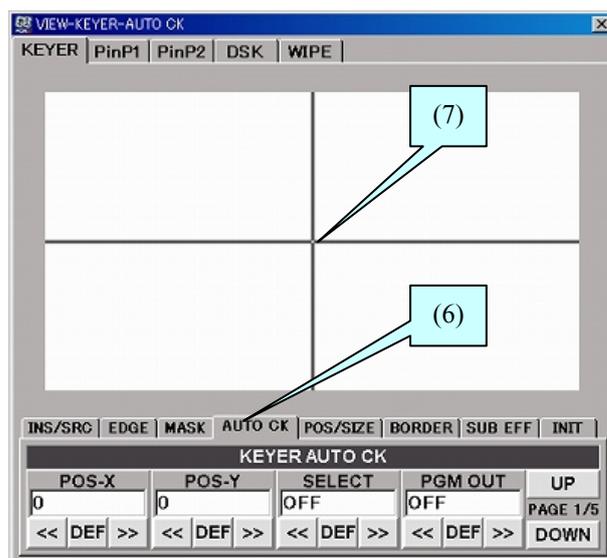
クロマキーはビデオ信号の輝度成分ではなくクロマ成分からキー信号をつくり、別の画像にキーで合成する手法です。HVS-30GUI ではモニタ画面にクロマキーカーソルを表示し、クロマキーを作成することができます。

- (1) PGM バスでバックグラウンドとなる信号を選択します。
- (2) **VIEW** ウィンドウ上部のタブで **KEYER** を、次に中央のタブで **INS/SRC** をクリックし、**[KEYER - INS/SRC]**メニューを表示します。
- (3) クロマキーに使用する信号を **INSERT** ボックスで選択します。 **TRANSITION** ウィンドウの **KEYER** 列で選択することもできます。
- (4) **[KEYER - INS/SRC]**メニューで **TYPE** ボックスを **CHR** に設定します。



- (5) **TRANSITION** ウィンドウ **KEYER** の **トランジション実行ボタン** をクリックし、**KEY** を画面に表示します。

- (6) **VIEW** ウィンドウ中央のタブの **AUTO CK** をクリックします。
- (7) **VIEW** ウィンドウのモニタ画面にクロマキーカーソルが表示されます。
- (8) モニタ画面上をクリックし、マウスをドラッグします。マウスの移動にあわせてクロマキーカーソルが動きます。マウスの左ボタンを離すと、その位置の色を基準にクロマキーが生成されます。



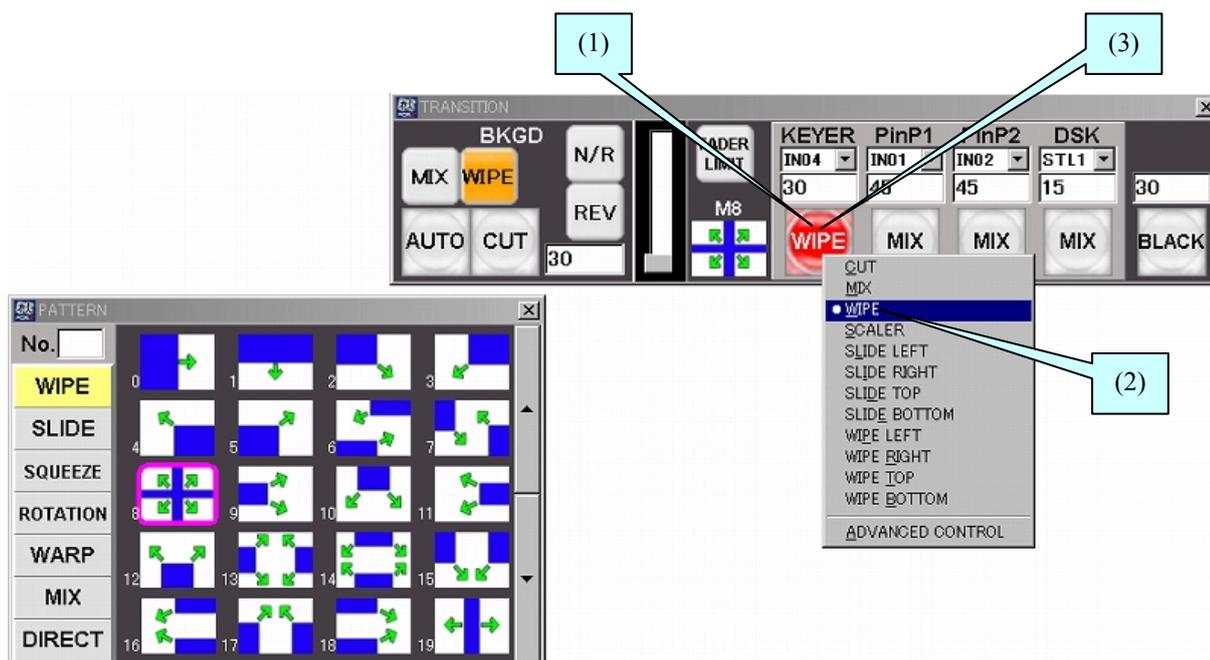
- (9) クロマキーの抜けが悪いときなどはメニューで調整することができます。クロマキーの調整については「HVS-300HS 取扱説明書」を参照してください。

## 5-4. KEYSER の IN/OUT 効果

- (1) KEYSER 列のトランジション実行ボタン上で、マウスを右クリックします。
- (2) 表示されたポップアップメニューから、トランジションタイプを選択します。**CUT**、**MIX**、**WIPE** (パターン)、**SCALER**、**SLIDE** (4 方向)、**WIPE** (4 方向) が選択可能です。

KEYSER では BKGD と同様に、WIPE パターンを使ったトランジションも可能です。ポップアップメニューから **WIPE** を選択後、PATTERN ウィンドウで WIPE パターンを選択します。パターンをモディファイすることもできます。(「3-4」 「3-5」参照)

- (3) KEYSER 列のトランジション実行ボタンをクリックすると、KEYSER が PGM 画面に表示されます。再度押すと PGM 画面から消えます。



### ◆ アドバンストオートトランジション

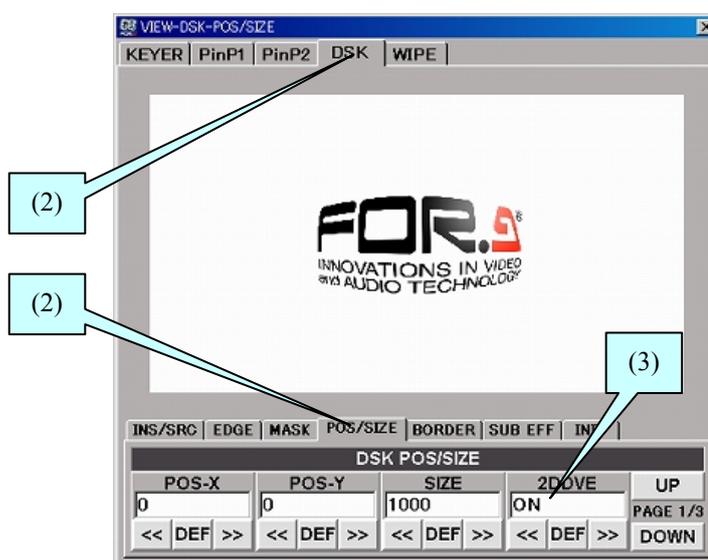
- (1) 次のようにしてアドバンストオートトランジション設定を有効にします。
  - a) トランジション実行ボタン上でマウスを右クリックし、ポップアップメニューを表示します。
  - b) **ADVANCED CONTROL** の左にチェックが付いていれば、アドバンストオートトランジションが有効になっています。チェックが付いていなければ、**ADVANCED CONTROL** をクリックしてください。
- (2) トランジション実行ボタンを押す長さでトランジションタイプが切り換わります。
  - ・ マウスの左ボタンをクリック  
→**CUT** トランジションを実行します。
  - ・ マウスの左ボタンを長く押す  
→表示中のトランジションタイプでトランジションを実行します。

## 5-5. KEYER/DSK の 2D DVE 効果

KEYER と DSK には 2D-DVE が標準で装備されています。2D-DVE を ON にするだけで、いつでも使用することができます。この章では DSK の位置やサイズの移動を例に 2D DVE 効果の操作方法について説明します。

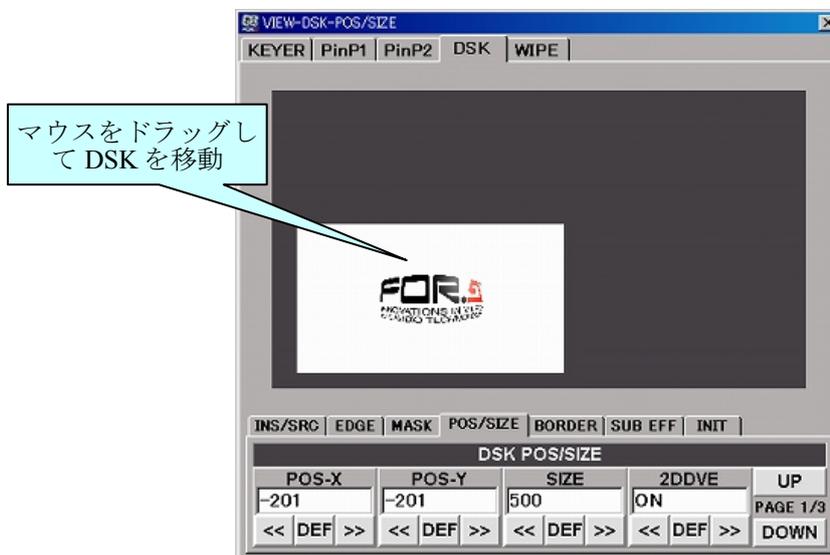
### 5-5-1. 2D DVE を有効にする

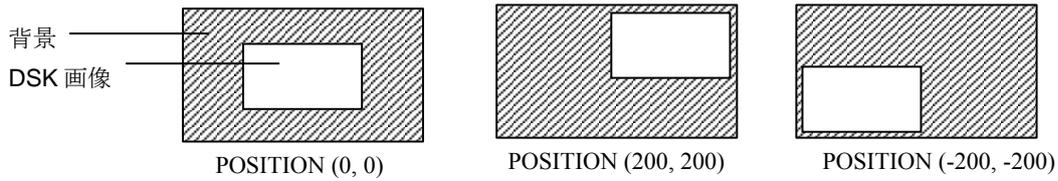
- (1) DSK セットアップ後、DSK を PGM 画面に表示します。(「5-1」「5-2」参照)
- (2) **VIEW** ウィンドウ上部のタブで **DSK** を、次に中央のタブで **POS/SIZE** をクリックし、[DSK - POS/SIZE]メニューを表示します。
- (3) 二重矢印をクリックし、2D DVE ボックスを **ON** にします。  
DSK の 2D DVE が有効になり、DSK メニューの POS/SIZE、BORDER、SUB EFFECT の設定が有効になります。



### 5-5-2. 位置とサイズを変更する

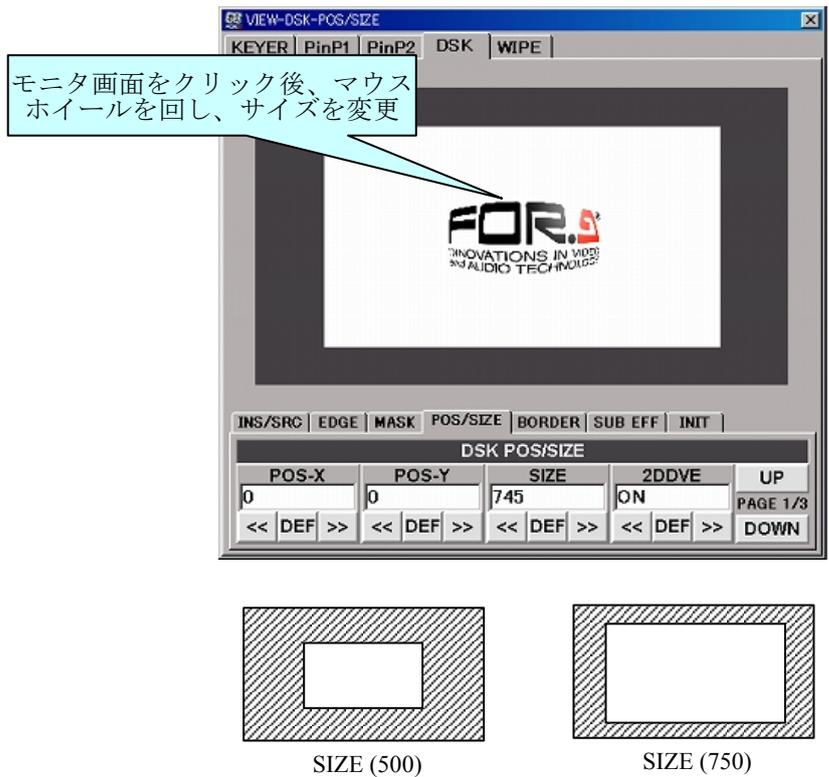
- (1) [DSK - POS/SIZE]メニューを表示します。
- (2) **VIEW** ウィンドウのモニタ画面上でマウスの左ボタンを押しながらドラッグします。マウスの移動にあわせて DSK 画像の位置が移動します。





POSITION パラメータは出力画面を基準にします。POSITION は出力画面の中心点を原点 (0, 0) とした二次元の XY 座標です。POSITION はこの原点 (0, 0) から DSK 画像の中心点までの変移を表します。

(3) マウスホイールを回します。動きに合わせて、DSK 画像のサイズが変わります。



KEYER、DSK 画像の縦横比は一定のまま大きさを設定します。1000 が全画面です。

## 6. スチル映像

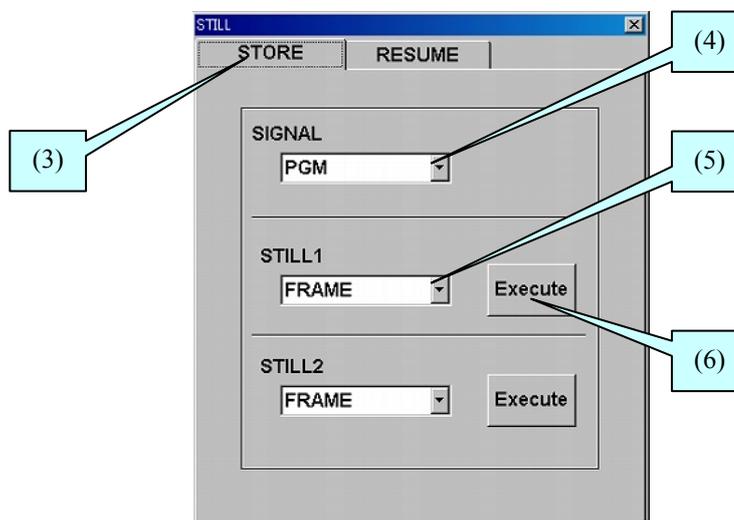
スチルストア機能とは、出力映像信号等の1画面を切り取ってメモリへ保存し、入力素材として利用できるようにするものです。2つのスチル画像を保存し使用することができます。スチル画像はスイッチャの電源を切断すると失われますが、スイッチャ内部でバックアップすることができます。また、LAN経由でPCに保存/PCから読み込みもできます。

### 6-1. スチルストア

- (1) PREV 出力、PGM 出力または AUX 出力に、保存したい映像を表示します。
- (2) メニューバーの **WINDOW** をクリックし、**STILL** を選択して STILL ウィンドウを開きます。
- (3) **STORE** タブをクリックします。
- (4) **SIGNAL** ボックスで保存する画像の出力を選択します。
- (5) STILL1 へ保存する場合は、**STILL1** ボックスで保存モードを FRAME、ODD、EVEN から選択します。
- (6) **Execute** を押します。静止画が STILL1 メモリに保存されます。

STILL1 がアサインされたバスボタンを押し、STILL1 映像を PGM 画面に出力して画像を確認してください。

- (7) STILL2 へ保存する場合も同様に操作します。

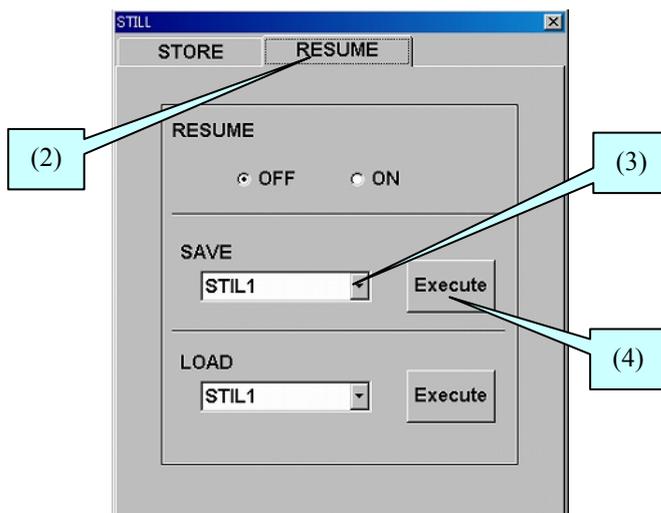


## 6-2. スチル画像の保存と読み込み

### 6-2-1. スイッチャ内部への保存と読み込み

#### ◆ STILL 画像をスイッチャ内部へ保存する

- (1) メニューバーの **WINDOW** をクリックし、**STILL** を選択して STILL ウィンドウを開きます。
- (2) **RESUME** タブをクリックします。
- (3) **SAVE** ボックスからバックアップするスチル映像を選択します。
- (4) **Execute** ボタンをクリックします。スチル画像がスイッチャ内部に保存されます。保存には1~2分かかります。

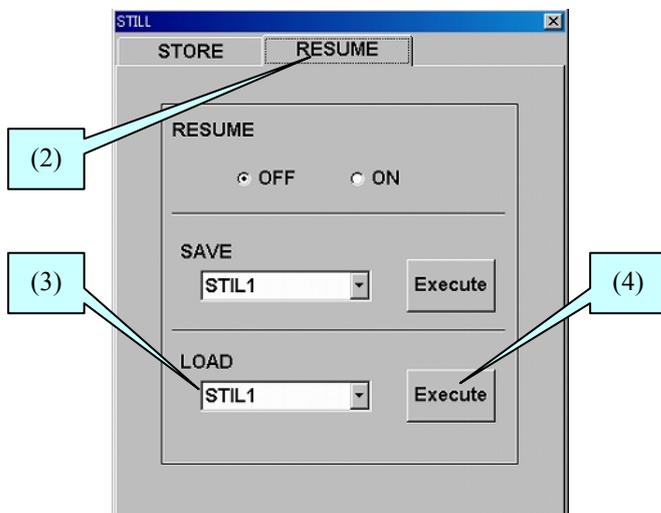


#### 注意

RESUME タブで **RESUME** を **ON** にすると、HVS-300HS 起動時にスイッチャ内部に保存したスチル画像が自動で読み込まれます。

#### ◆ STILL 画像をスイッチャ内部から読み込む

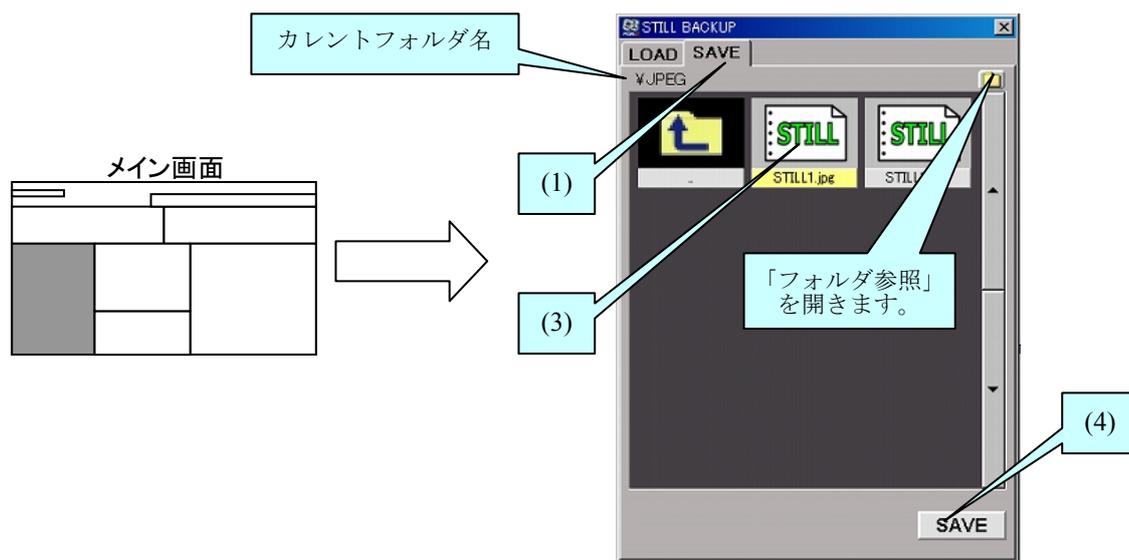
- (1) メニューバーの **WINDOW** をクリックし、**STILL** を選択して STILL ウィンドウを開きます。
- (2) **RESUME** タブをクリックします。
- (3) **LOAD** ボックスで読み込むスチルメモリを STIL1、STIL2、ALL から選びます。
- (4) **Execute** ボタンをクリックします。スチル画像が読み込まれます。



## 6-2-2. PC への保存と読み込み

### ◆ STILL 画像を PC へ保存する

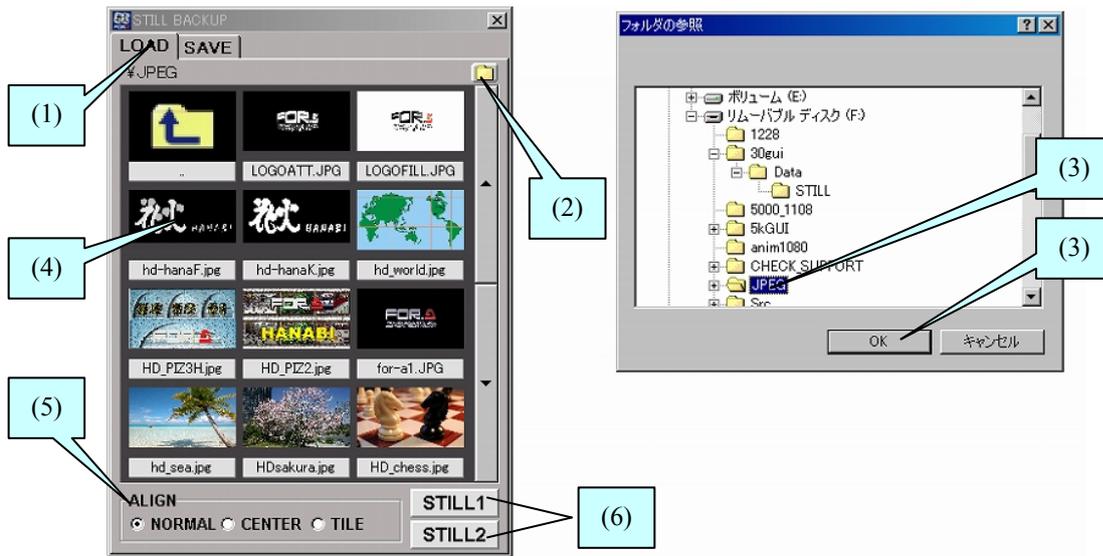
- (1) **STILL BACKUP** ウィンドウの上部で **SAVE** タブをクリックして、**SAVE** 画面を表示します。
- (2) **STILL1** または **STILL2** フォルダをダブルクリックして開きます。
- (3) ファイルリストから目的とする画像ファイルをクリックして選択します。ファイルラベルが黄色く点灯します。
- (4) **SAVE** ボタンをクリックします。画像ファイルが PC のカレントフォルダに保存されます。



保存するフォルダを変更するには、右上の小さなフォルダアイコンをクリックします。ポップアップの「フォルダの参照」画面から保存したいフォルダを選択します。

### ◆ STILL 画像を PC から読み込む

- (1) **STILL BACKUP** ウィンドウの上部で **LOAD** タブをクリックして、**LOAD** 画面を表示します。
- (2) ファイルリストに PC 内のファイルが表示されます。他のフォルダへ移動するときは、右上の小さなフォルダアイコンをクリックし、ポップアップの「フォルダの参照」画面を開きます。
- (3) 読み込むデータが保存されているフォルダをクリックし、**OK** を押します。
- (4) ファイルリストから目的の画像ファイルをクリックします。(読み込み可能なファイルについては「8-1. データファイル」を参照してください。)
- (5) 通常のフォーマットではなく、センタリング書き込みにしたい場合は **center** をクリックします。タイル書き込みにしたい場合は **tile** をクリックします。
- (6) 左側の **STILL1** (または **STILL2**) ボタンをクリックします。画像ファイルが **STILL1** メモリ (または **STILL2** メモリ) に保存されます。



## 7. イベントメモリ

HANABI シリーズでは、操作パネルの設定状態をデータとして保存し、必要なときに読み込むことができます。この機能をイベントメモリと呼びます。イベントメモリを使用することによって、同じ設定状態を瞬時に再現することができます。100個のイベントをメモリに保存できます。イベントの保存、読み込みにはメイン画面左下の **EVENT MEMORY** ウィンドウを使用します。

### 7-1. イベントの保存

#### ◆ イベントの保存

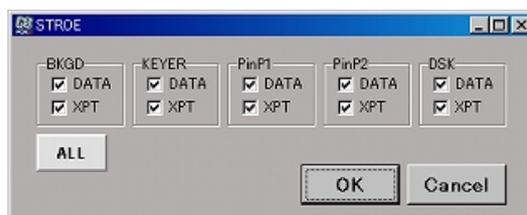
- (1) **EVENT MEMORY** ウィンドウの上下のバーを使って、[EVENT000]~[EVENT099] から保存に使用したいメモリ番号を表示します。

メモリ番号ボタンは3色あります。イベントが未保存の場合は薄茶色、保存済の場合は白、選択中は黄色になります。

- (2) 保存先のメモリ番号ボタン上でマウスを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- (3) ポップアップメニューから **Store** を選択します。



- (4) **STORE** ダイアログが表示されます。イベントに保存したいバス情報にチェックを入れます。ALL をクリックするとすべてが選択されます。



**XPT** ボックスをチェックすると、バスの映像信号選択の情報 (たとえば PGM バスで IN01 が選択されているなど) がイベントに保存されます。**DATA** ボックスをチェックすると、信号選択を含むバス情報 (たとえばトランジションレートやトランジションタイプなど) がイベントに保存されます。

- (5) **OK** ボタンを押します。選択したメモリ番号にイベントが保存されます。保存済のメモリ番号ボタンを選択した場合、上書き確認のダイアログが表示されます。

#### ◆ イベントメモリに保存されないもの

SETUP メニュー設定  
FILE メニュー設定  
STILL 画像

## 7-2. イベントの読み込み

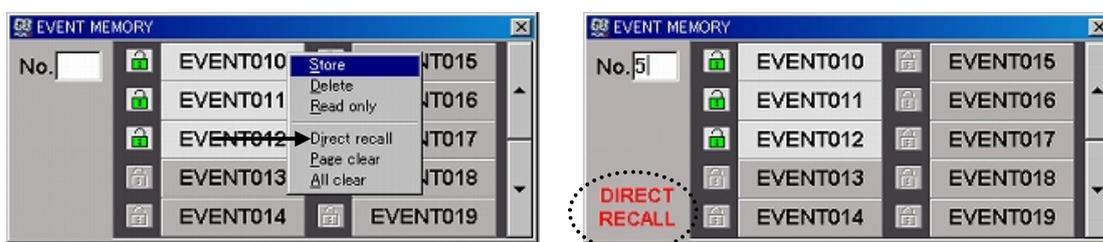
イベントの読み込み方法は複数あります。用途に合わせてご使用ください。

### 7-2-1. DIRECT RECALL

もっとも短い手順でイベントを読み込みます。2つの操作方法があります。また、事前にDIRECT RECALLモードにする必要があります。

#### ◆ DIRECT RECALL モードを有効にする

- (1) EVENT MEMORY ウィンドウ上でマウスを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- (2) ポップアップメニューから Direct recall を選択します。DIRECT RECALL モード中は左下に **DIRECT RECALL** の文字が表示されます。



#### ◆ 操作方法 1

- (1) EVENT MEMORY ウィンドウの上下のバーを使って、[EVENT000] ~ [EVENT099] から読み込みたいメモリ番号を表示します。
- (2) 読み込むメモリ番号ボタンをクリックします。音が鳴り、イベントが読み込まれます。



#### ◆ 操作方法 2

- (1) No. ボックス内をクリックし、読み込みたいメモリ番号を入力します。
- (2) [Enter]キーを押します。音が鳴り、イベントが読み込まれます。



#### 注意

DIRECT RECALL ではイベントを読み込むときに、情報を選択することはできません。情報を選択したい場合は、RECALL ダイアログを使ってイベントを読み込んでください。(次ページ参照)

## 7-2-2. RECALL ダイアログを使う

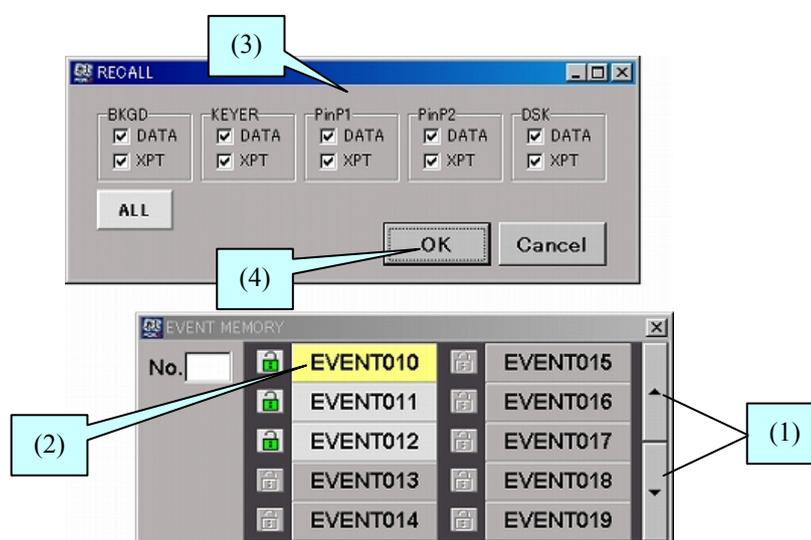
RECALL ダイアログを使う場合も、2つの操作方法があります。

### ◆ 操作方法 1

- (1) EVENT MEMORY ウィンドウの上下のバーを使って、[EVENT000] ~ [EVENT099] から読み込みたいメモリ番号を表示します。

メモリ番号ボタンは3色あります。イベントが未保存の場合は薄茶色、保存済の場合は白、選択中は黄色になります。

- (2) 読み込むメモリ番号ボタンをクリックします。
- (3) RECALL ダイアログが表示されます。読み込みたい情報を限定したい場合は、バス情報のチェックを外します。ALL をクリックするとすべてが選択されます。
- (4) **OK** ボタンを押します。音が鳴り、選択したメモリ番号のイベントが読み込まれます。



### ◆ 操作方法 2

- (1) **No.** ボックス内をクリックし、読み込みたいメモリ番号を入力します。
- (2) [Enter]キーを押します。
- (3) RECALL ダイアログが表示されます。読み込みたい情報を限定したい場合は、バス情報のチェックを外します。(上図参照)
- (4) **OK** ボタンを押します。音が鳴り、選択したメモリ番号のイベントが読み込まれます。

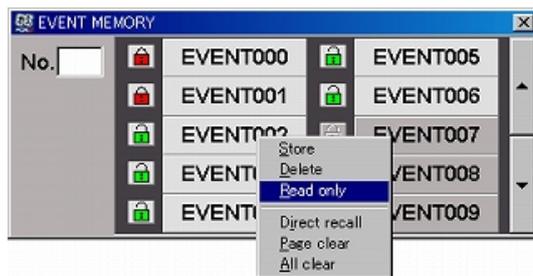
## 7-3. イベントの上書き禁止

### ◆ 操作方法 1

EVENT MEMORY ウィンドウのメモリ番号左にある錠前アイコンをクリックします。アイコンが赤くなりメモリは上書き禁止になります。もう一度錠前アイコンをクリックすると緑に戻り、上書き可能になります。

### ◆ 操作方法 2

EVENT MEMORY ウィンドウのメモリ番号上でマウスを右クリックし、ポップアップメニューを表示します。ポップアップメニューの Read only をクリックし、メモリを上書き禁止にします。もう一度 Read only をクリックすると上書き可能になります。



## 7-4. イベントの削除

### ◆ ひとつのイベントを削除する

- (1) EVENT MEMORY ウィンドウの上下のバーを使って、[EVENT000] ~ [EVENT099] から削除するメモリ番号を表示します。
- (2) 削除するメモリ番号ボタン上でマウスを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- (3) ポップアップメニューから **Delete** を選択します。選択したイベントが削除されます。

### ◆ イベントページを削除する

- (1) EVENT MEMORY ウィンドウの上下のバーで、削除するページを選択します。
- (2) EVENT MEMORY ウィンドウの上でマウスを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- (3) ポップアップメニューから **Page clear** を選択します。
- (4) 確認ダイアログが表示されます。はい を押すと選択したページのイベントが削除されます。

### ◆ すべてのイベントを削除する

- (1) EVENT MEMORY ウィンドウの上でマウスを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
- (2) ポップアップメニューから **All clear** を選択します。
- (3) 確認ダイアログが表示されます。はい をクリックするとすべてのイベントが削除されます。



## 8. ファイル操作

スチル画像、イベントデータ、システムデータをファイルとして PC の HDD へ保存し、読み込むことができます。

### 8-1. データファイル

#### ◆ PC へ保存されるデータ

File Type	ファイル名 (*1)	内容
ALL	DATA.all	システムデータ、全ての WIPE データ、全てのイベントメモリデータ
SYS	HVS-300.sys	システムデータ
EVENT	EVENT.mem	全てのイベントメモリデータ
STILL	STILL1.jpg STILL1.tga	STILL1 画像データ
	STILL2.jpg STILL2.tga	STILL2 画像データ

(\*1) PC へ保存されるときに、自動的にこれらのファイル名がつけられます。

#### ◆ PC から読み込めるデータ

File Type	ファイル名	内容
ALL	*.all	システムデータ、全ての WIPE データ、全てのイベントメモリデータ
SYS	*.sys	システムデータ
EVENT	*.mem	全てのイベントメモリデータ
STILL	*.jpg (*1)	JPEG フォーマット (RGB スタンド) ファイル名は、拡張子を除き 8 文字 (ASCII コード) 以内してください。
	*.tga (*1)	TARGA フォーマット (RGB 非圧縮) ファイル名は、拡張子を除き 8 文字 (ASCII コード) 以内してください。

(\*1) JPEG および TARGA ファイルは、読み込み時に通常のフォーマットの他にセンタリング書き込みとタイル書き込みフォーマットが選択できます。これらのフォーマットも jpg、tga の拡張子で保存/読み込まれます。

#### ◆ データの保存と読み込み方法

**ALL データ：** 「8-2. ALL データの保存と読み込み」を参照してください。

**SYS データ：** 「8-3. SYS データの保存と読み込み」を参照してください。

**イベントデータ：** 「8-4. イベントデータの保存と読み込み」を参照してください。

**スチル画像データ：** 「6-2-2. PC への保存と読み込み」を参照してください。

## 8-2. ALL データの保存と読み込み

ALL データ (DATA.all ファイル) には、システムデータ、全ての WIPE データ、全てのイベントメモリデータが含まれます。

### ◆ ALL データの保存

- (1) メニューバーから **File** をクリックし、**Save** を選択します。
- (2) プルダウンメニューから **All Data... (\*.all)** を選択します。
- (3) ファイル保存ダイアログが表示されます。名前をつけて保存してください。



### ◆ ALL データの読み込み

- (1) メニューバーから **File** をクリックし、**Load** を選択します。
- (2) ファイルオープンダイアログが開きます。ダイアログ下部のドロップダウンメニューからファイルの種類を選び、**All** を選択します。
- (3) 目的のファイルを選択します。
- (4) **開く** ボタンをクリックします。HVS-300HS へ ALL データが送信されます。

#### 注意

システムデータを読み込んだときは、必ず、HVS-300HS の電源を入れ直してください。電源を入れ直さないとシステム設定が有効になりません。

システムデータを読み込むと、インターフェースの設定などがすべて読み込まれます。現在と異なる通信設定が読み込まれるとスイッチャと GUI が通信できなくなる場合もありますので、十分注意してください。

## 8-3. SYS データの保存と読み込み

---

SYS データ (HVS-300.sys ファイル) には、システムデータが含まれます。

### ◆ SYS データの保存

- (1) メニューバーから **File** をクリックし、**Save** を選択します。
- (2) サブメニューから **System Data... (\*.sys)** を選択します。
- (3) ファイル保存ダイアログが表示されます。名前をつけて設定を保存してください。

### ◆ SYS データの読み込み

- (1) メニューバーから **File** をクリックし、**Load** を選択します。
- (2) ファイルオープンダイアログが開きます。ダイアログ下部のドロップダウンメニューから**ファイルの種類**を選び、**Sys** を選択します。
- (3) 目的のファイルを選択します。
- (4) **開く** ボタンをクリックします。HVS-300HS へシステムデータが送信されます。

#### 注意

システムデータを読み込んだときは、必ず、HVS-300HS の電源を入れ直してください。電源を入れ直さないとシステム設定が有効になりません。

システムデータを読み込むと、インターフェースの設定などがすべて読み込まれます。現在と異なる通信設定が読み込まれるとスイッチャと GUI が通信できなくなる場合もありますので、十分注意してください。

## 8-4. イベントデータの保存と読み込み

---

イベントデータ (EVENT.mem ファイル) には、No.000 ~ No.099 までに保存されているすべてのイベントメモリデータが含まれます。

### ◆ イベントデータの保存

- (1) メニューバーから **File** をクリックし、**Save** を選択します。
- (2) サブメニューから **Eventmemory Data... (\*.mem)** を選択します。
- (3) ファイル保存ダイアログが表示されます。名前をつけて設定を保存してください。

### ◆ イベントデータの読み込み

- (1) メニューバーから **File** をクリックし、**Load** を選択します。
- (2) ファイルオープンダイアログが開きます。ダイアログ下部のドロップダウンメニューから**ファイルの種類**を選び、**Mem** を選択します。
- (3) 目的のファイルを選択します。
- (4) **開く** ボタンをクリックします。HVS-300HS へイベントデータが送信されます。

## 9. キーボード操作

キーボードを Operation モードに切り換えることで、キーボードを使ったソース信号選択やトランジション操作が可能になります。

### 9-1. キーマッピング

キーの割り当ては下図のようになっています。

MODE Esc	BKGD 1	KEYER 2	PinP1 3	PinP2 4	DSK 5	AUX1 6	AUX2 7	AUX3 8	9	10	11	12	
~ `	BUS(HIGH) 1 !	@	#	\$	%	^	&	*	(	)	-	=	BLACK TRANS Backspace
Tab	BUS(LOW) Q	W	E	R	T	Y	U	I	O	P	{	}	
Caps Lock	A	S	D	F	G	H	MIX J	WIPE K	L	:	"	'	CUT Enter
TRANS PREV Shift	PGM Z	PREV X	CLN C	MV V	B	NORMAL N	NOR/REV M	REVERSE <	>	?	/	TRANS PREV Shift	
Ctrl	Win	Alt	AUTO Space					Alt	Win	Win	Ctrl		

テンキー付きのキーボードでは、**NumLock** が **ON** のとき、テンキーをイベントメモリの読み込み操作に使用できます。**NumLock** が **OFF** のときはトランジション操作に使用できません。

テンキーのみのキーパッドは未サポートです。

Num Lock	/	*	PREV -
7 No. Home	8 ↑	9 PageUp	NEXT +
4 ←	5	6 →	
1 End	2 ↓	3 PageDn	Enter
0 Ins	.		Del

Num Lock ON

Num Lock	/	*	-
7 Home	8 ↑	9 PageUp	+
MIX 4 ←	5	WIPE 6 →	
1 End	2 ↓	3 PageDn	CUT Enter
0 Ins	AUTO .		Del

Num Lock OFF

この章ではキーを次のように表示して区別します。

オリジナルのキー (キーヘッドのプリント文字)  
HVS-30GUI のキー (Operation モード時)

[Enter]、[Tab]、[Shift] など  
**BKGD**、**AUX1**、**MIX** など

KEYBOARD MAP を表示するには、メニューバーから [Window-KEYBOARD MAP] を選択します。KEYBOARD MAP ウィンドウでキーをマウスオーバーすると、操作説明が KEYBOARD MAP ウィンドウ下部のステータスバーに表示されます。

## 9-2. トランジション

### 9-2-1. バックグラウンドトランジション

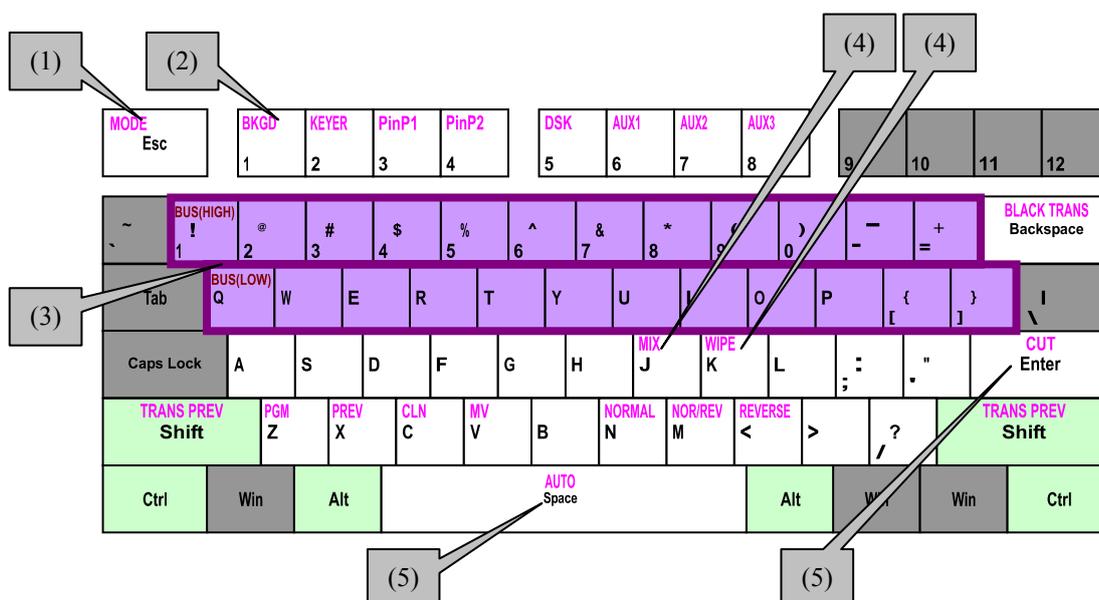
- (1) [Esc] を押してキーボードの操作モードを Operation モードに切り換えます。下図のように Operation と表示されていることを確認してください。
- (2) [F1] (**BKGD**) を押して操作対象のバスを BKGD にします。STATUS バーの BKGD 表示が緑に点灯していることを確認してください。



- (3) PST バスボタン列のキー (ナンバーキーと一部のアルファベットキー、下図参照) を押して XPT を変更します。

キーボードのバスボタン列は 2 段あります。P/P タイプ (初期設定) の場合は、下段が常に PST バスになります。A/B バスタイプの場合は、トランジション毎に PST バスの位置が変わり、GUI の BUS BUTTON ウィンドウの表示と同じになります。BUS TYPE は、メニューバーから [ Setup-HVS-300HS Setup] を選んで SETUP ウィンドウを開き、[ PANEL-TRS CTRL-BUS TYPE] で変更できます。

- (4) [J] (**MIX**) または [K] (**WIPE**) でトランジションタイプを MIX または WIPE に切り換えます。
- (5) [Space] (**AUTO**) を押すと AUTO トランジション、[Enter] (**CUT**) を押すと CUT トランジションを実行します。

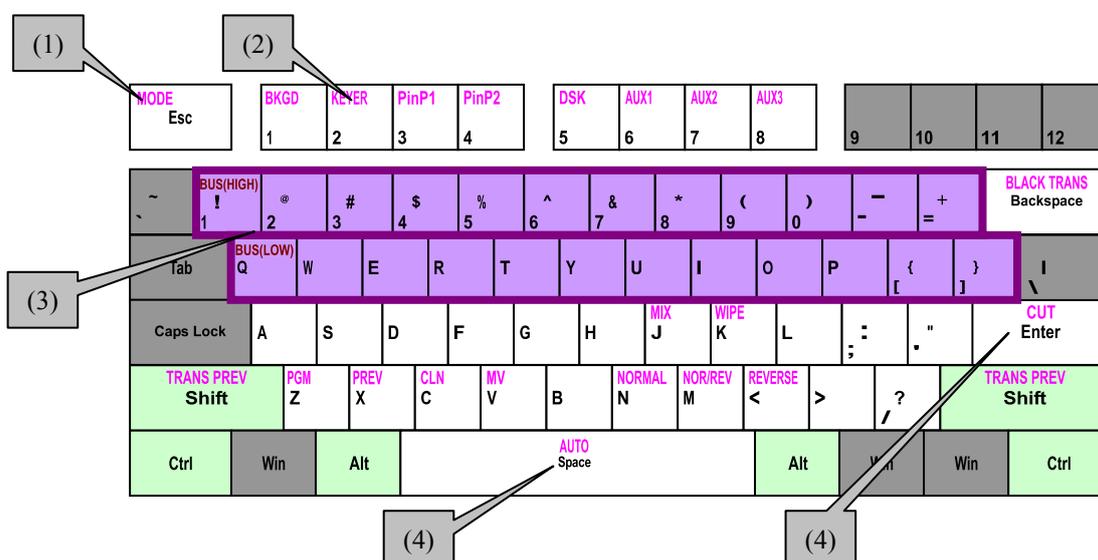


## 9-2-2. KEYER トランジション

- (1) [Esc]を押してキーボードの操作モードを Operation モードに切り換えます。下図のように Operation と表示されていることを確認してください。
- (2) [F2] (**KEYER**) を押して操作対象のバスを KEYER にします。STATUS バーの KEYER 表示が緑に点灯していることを確認してください。



- (3) バスボタン列のキーを押して INSERT 信号を選択します。
- (4) [Space] (**AUTO**) を押すと TRANSITION ウィンドウで選択中のトランジションを実行します。[Enter] (**CUT**) を押すと CUT トランジションを行います。



KEYER、PinP、DSK のアドバンストランジション設定はキーボード操作ではできません。

## 9-2-3. ブラックトランジション

- (1) [Esc]を押してキーボードの操作モードを Operation モードに切り換えます。
- (2) [Ctrl] を押しながら [Back Space] (**BLACK TRANS**) を押します。

## 9-2-4. トランジションプレビュー

[Shift] (**TRANS PREV**) を押ししている間はトランジションプレビュー機能が働きます。  
 [Shift] (**TRANS PREV**) を押しながら、[Space] (**AUTO**) / [Enter] (**CUT**) を押してトランジションさせると、PREV 出力でトランジションのプレビュー映像が確認できます。

## 9-2-5. 複数バス同時トランジション

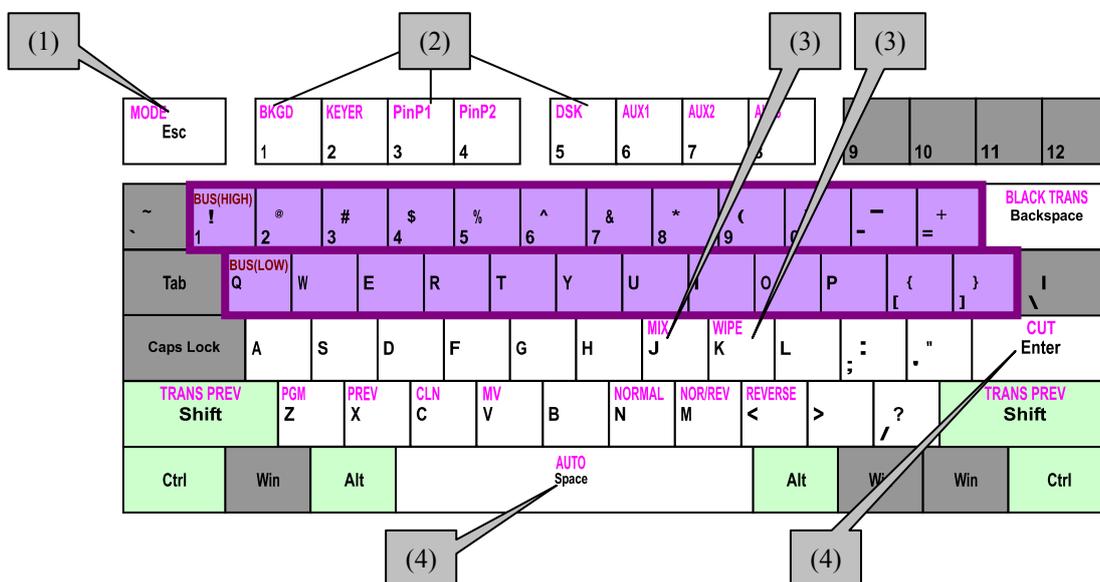
操作対象のバスを複数同時選択すると、複数バスで同時にトランジションを行うことができます。以下では、BKGD、PinP1、DSK を同時にトランジションさせる例を説明します。

- (1) [Esc] を押してキーボードの操作モードを Operation モードに切り換えます。図のように Operation と表示されていることを確認してください。
- (2) [F1] (BKGD) を押しながら、[F3] (PinP1)、[F5] (DSK) を押します。STATUS バーの BKGD、PinP1、DSK 表示が緑に点灯していることを確認してください。



キーボードによって、3 つ以上のキーの同時押しを認識しない場合があります。3 つ以上のバスを選択する際は、1 つのキーを押したまま、残りのキーを順に押してください。

- (3) [J] (MIX) または [K] (WIPE) でトランジションタイプを MIX または WIPE に切り換えます。
- (4) [Space] (AUTO) を押すと BKGD は AUTO トランジションを、PinP1、DSK は TRANSITION ウィンドウで選択中のトランジションを実行します。[Enter] (CUT) を押すと CUT トランジションを行います。

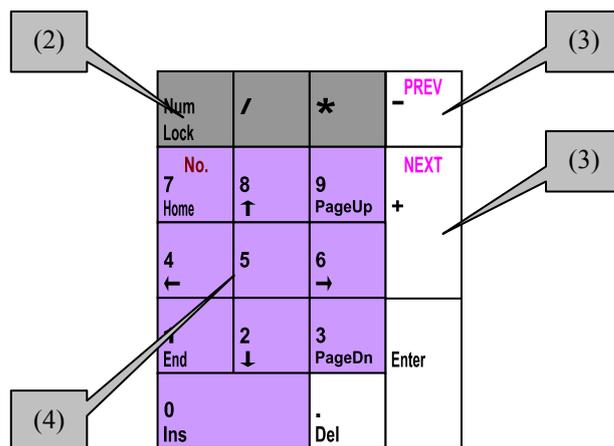


KEYER、PinP、DSK のアドバンストランジション設定はキーボード操作ではできません。

複数バスを同時に選択しているときは、ソース信号の選択はできません。しかし、BKGD キーが点灯していれば、BKGD のソース信号は変更できます。KEYER、PinP、DSK、AUX のソース信号を変更するときは、いったん複数バス選択を解除してから行ってください。

### 9-3. イベントの読み込み

- (1) [Esc]を押してキーボードの操作モードを Operation モードに切り換えます。
- (2) [NumLock] を ON にします。
- (3) EVENT MEMORY ウィンドウを見ながら、[-] (PREV) / [+ ] (NEXT) を押してページを切り換えます。
- (4) 読み込むイベントメモリ番号の末尾の数字 ([0] ~ [9]) を押します。DIRECT RECALL モードの場合はイベントが読み込まれます。DIRECT RECALL モードでなければ、RECALL ダイアログが表示されますので、読み込みたい情報にチェックを入れ **OK** ボタンを押してください。



Num Lock ON

**注意** テンキー付きのキーボードでは、**NumLock** が **ON** のとき、テンキーをイベントメモリの読み込み操作に使用できます。**NumLock** が **OFF** のときはトランジション操作に使用できます。

## 10. メニューバー

### 10-1. File

File メニュー		説明	参照
Load		設定データの読み込みます。	8
Save	All Data	すべての設定データを保存します。	
	Eventmemory Data	イベントデータを保存します。	
	System Data	システムデータを保存します。	
Exit		HVS-30GUI を終了します。	

### 10-2. Window

Window メニュー		説明	参照
Default Layout		メイン画面を標準レイアウトに戻します。	2-4
STATUS		STATUS ウィンドウを表示します。	
PATTERN		PATTERN ウィンドウを表示します。	3-6
VIEW		VIEW ウィンドウを表示します。	2-5, 3-4, 3-5, 4-1, 5-1, 5-3, 5-5
BUS BUTTON		BUS BUTTON ウィンドウを表示します。	3, 4, 5
TRANSITION		TRANSITION ウィンドウを表示します。	
EVENTMEMORY		EVENT MEMORY ウィンドウを表示します。	7
STILL BACKUP		STILL BACKUP ウィンドウを表示します。	6
KEYBOARD MAP		KEYBOARD MAP ウィンドウを表示します。	9-1
STILL		STILL ウィンドウを表示します。	2-4
BUS MATT		BUS MATT ウィンドウを表示します。	2-4

### 10-3. Setup

Setup ウィンドウのメニューは HVS-300HS の SETUP メニューとほぼ同じです。各パラメータの詳細は「HVS-300HS 取扱説明書」を参照してください。「HVS-300HS 取扱説明書」巻末の索引を使って関連するページを開いてください。下表の太字が索引のキーワードになります。

Setup メニュー		説明	
SYSTEM	FORMAT	システムモードを設定します。	
	REF I/O	同期信号を設定します。	
	ARCNET	アークネットの設定を行います。	
	ETHERNET	イーサネットの設定を行います。	
	INIT	システムを初期化します。	
	REBOOT	システムを再起動します。	
INPUT	SIGNAL	SIGNAL	入力信号のフォーマットとフレームシンクロナイザの設定を行います。(ビデオソースのセットアップ)
		SIDE COLOR	アップリサイズした入力信号のサイドマット色を設定します。
	PROC AMP	プロセスアンプ機能を使用してビデオレベルを調整します。	
	RENAME	ビデオソースに名前をつけます。	
	ASSIGN	OU ASSIGN	ビデオソースをバスボタンに割り当てます。
		FP/RU ASSIGN	<b>HVS-30FP</b> または <b>HVS-30RU</b> のバスボタンにソースを割り当てます。

OUTPUT	MARKER	セーフティエリアマーカを設定します。
	CLN/PREV	クリーン映像、プレビュー映像を設定します。
	ANCI	アンシラリデータの扱いを設定します。
	AUX XPT	AUX 出力の映像を選択します。
	MV	マルチビューワの出力を設定します。
	OPTION	オプション出力のセットアップを行います。
PANEL	TRS CTRL	本書「9-2-1」参照
	KEY CTRL	本書「5-1」参照
	DVE CTRL	<b>DVE</b> トランジションの端点処理を設定します。
EXT I/F	RS-422	タリーユニット、HVS-30RU の接続設定を行います。
	EDITOR	エディタの接続設定を行います。
	TALLY COLOR	タリー出力設定でタリーカラーを選択します。
	GPI I/O	<b>GPI</b> 制御設定を行います。
	TALLY1	タリーユニット 1 への出力設定を行います。
	TALLY2	タリーユニット 2 への出力設定を行います。
VIRTUAL LINK	GENERAL	バーチャルリンク(HVS-30VR) 追加時に使用できます。 詳しくは「HVS-30VR 取扱説明書」を参照してください。
	VIRTUAL LINE	
	CG COMPONENT	

## 10-4. SystemInfo

メニュー	説明
Version	システムのソフトウェアのバージョンを表示します。
I/O Options	HVS-300HS に搭載されている入出力拡張基板を表示します。
License registration...	ソフトのライセンスを登録します。



## サービスに関するお問い合わせは

**FOR.A**<sup>®</sup>  
INNOVATIONS IN VIDEO  
and AUDIO TECHNOLOGY

24h  
365 days サービスセンター

**03-3446-8575**

## 株式会社 朋栄

本 社	〒150-0013	東京都渋谷区恵比寿 3-8-1	Tel:03-3446-3121 (代)
関西支店	〒530-0055	大阪市北区野崎町 9-8 永楽ニッセイビル 8F	Tel:06-6366-8288 (代)
札幌営業所	〒004-0015	札幌市厚別区下野幌テクノパーク 2-1-16	Tel:011-898-2011 (代)
東北営業所	〒980-0021	仙台市青葉区中央 2-10-30 仙台明芳ビル	Tel:022-268-6181 (代)
中部・北陸営業所	〒460-0003	名古屋市中区錦 1-20-25 広小路 YMD ビル	Tel:052-232-2691 (代)
中国営業所	〒730-0012	広島市中区上八丁堀 5-2 KM ビル	Tel:082-224-0591 (代)
九州営業所	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通 2-4-8 福岡小学館ビル	Tel:092-731-0591 (代)
沖縄営業所	〒900-0015	沖縄県那覇市久茂地 3-17-5 美栄橋ビル	Tel:098-860-4178 (代)
佐倉研究開発センター	〒285-8580	千葉県佐倉市大作 2-3-3	Tel:043-498-1230 (代)
札幌研究開発センター	〒004-0015	札幌市厚別区下野幌テクノパーク 2-1-16	Tel:011-898-2018 (代)

その他のお問い合わせは、最寄りの営業所にご連絡ください。